

官報 號外

大正十年三月十八日 金曜日

印刷局

第四十四回衆議院議事速記録第二十九號

大正十年三月十七日(木曜日)午後一時十八分開議

議事日程 第二十八號 大正十年三月十七日

午後一時開議

- 第一 埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案(粕谷義三君外七名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二 決議案(南滿鐵道會社ニ對スル監督責任ノ件)(箕浦勝人君外七名提出)
- 第三 樞密院官制改正ニ關スル建議案(副島義一君提出)
- 第四 科學知識普及ニ關スル建議案(鈴木錠藏君提出)
- 第五 商務省及工務省設置ニ關スル建議案(奧村安太郎君外一名提出)
- 第六 癲狂院増設ニ關スル建議案(中馬與九君外三名提出)
- 第七 傳染病豫防法改正ニ關スル建議案(松下禎二君外三名提出)
- 第八 中央線淺川驛鹽山驛間電力速成ニ關スル建議案(三枝彦太郎君提出)
- 第九 賣藥營業稅廢止ニ關スル建議案(高見之通君外二名提出)
- 第十 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外四名提出)
- 第十一 國分岩川間鐵道敷設ニ關スル建議案(日野辰次君外一名提出)
- 第十二 櫻井松坂間鐵道速成ニ關スル建議案(津野田是重君外九名提出)
- 第十三 勢江鐵道速成ニ關スル建議案(天春文衛君外七名提出)
- 第十四 西條松山間鐵道豫定線一部變更ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出)
- 第十五 溫泉政策ニ關スル建議案(成田榮信君外一名提出)
- 第十六 港灣行政ニ關スル建議案(三善清之君外四名提出)

- 第十七 鹿兒島縣各離島航海補助増額ニ關スル建議案(禰苗代君外七名提出)
- 第十八 三原吳間鐵道敷設速成ニ關スル建議案(井上角五郎君外三名提出)
- 第十九 酒造稅法中改正ニ關スル建議案(中村清造君外四名提出)
- 第二十 農產物收穫調査及農家經濟調査確立ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第二十一 軍人恩給法中改正ニ關スル建議案(近藤達兒君提出)
- 第二十二 清酒ノ滓引及貯藏減量控除額増加ニ關スル建議案(山邑太三郎君外二名提出)
- 第二十三 相可町大口港間鐵道敷設ニ關スル建議案(伊坂秀五郎君外四名提出)
- 第二十四 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)
- 第二十五 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)
- 第二十六 濃飛鐵道速成ニ關スル建議案(匹田銳吉君外三名提出)
- 第二十七 僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權附與ニ關スル建議案(安藤正純君提出)
- 第二十八 東京外國語學校修業年限延長ニ關スル建議案(菅原傳君外三名提出)
- 第二十九 北海道本州連絡完成ニ關スル建議案(伊藤廣義君外四名提出)
- 第三十 木次三次間鐵道建設ニ關スル建議案(原夫次郎君外五名提出)
- 第三十一 落合木次間鐵道起工年度繰上ニ關スル建議案(佐野正雄君外五名提出)
- 第三十二 日向沿岸國庫補助港設定ニ關スル建議案(長峰與一君外二名提出)
- 第三十三 恩給法規ノ根本改正ニ關スル建議案(高木正年君外二名提出)
- 第三十四 福山三次間鐵道速成ニ關スル建議案(永屋茂君外三名提出)

- 第三十五 吉野縱貫鐵道建設ニ關スル建議案(岩本平藏君外三名提出)
 - 第三十六 癲癩防關係法規改正ニ關スル建議案(中馬與九君外二名提出)
 - 第三十七 山田川ニ河川法適用ニ關スル建議案(原田藤次郎君外五名提出)
 - 第三十八 鴨綠江岸道路修築ニ關スル建議案(高見之通君外五名提出)
 - 第三十九 京都監獄移轉ニ關スル建議案(竹上藤次郎君外三名提出)
 - 第四十 六大都市特別市制速施ニ關スル建議案(奧村安太郎君外三名提出)
 - 第四十一 國幣大社大山祇神社昇格ニ關スル建議案(深見寅之助君外五名提出)
 - 第四十二 國幣大社大山祇神社國寶殿建築ニ關スル建議案(深見寅之助君外五名提出)
 - 第四十三 山田豐岡間鐵道速成ニ關スル建議案(長田桃藏君外二名提出)
 - 第四十四 富山伏木間鐵道建設ニ關スル建議案(高見之通君外三名提出)
 - 第四十五 松江隱岐間海底電線増設速成ニ關スル建議案(若林德懋君外五名提出)
 - 第四十六 金融機關整備ニ關スル建議案(河上哲太君外十一名提出)
 - 第四十七 思想問題審議機關設置ニ關スル建議案(星島二郎君提出)
- 議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス
〔原田書記官朗讀〕
一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第二號)大正十年度歳入歳出總豫算追加案
(特第二號)大正十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔下ナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
關稅定率法中改正法律案
製鐵業獎勵法中改正法律案
(以上三月十七日提出)

一昨十六日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ
馬籍法案
航空法案
無線電信法中改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
片町四條間電力鐵道延長ニ關スル建議案

提出者 植場 平君 岩崎幸次郎君
決議案(中橋文部大臣ノ責任ニ關スル件)
提出者 下岡 忠治君 早速 整爾君

關 和知君
(以上三月十六日提出)

直江津港築港ニ關スル建議案
提出者 鈴木 義隆君 小田切磐太郎君
山本悌二郎君 栗林 五朔君
(以上三月十七日)

一昨十六日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案
ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
帝國鐵道會計法中改正法律案(政府提出)
水產會法案(政府提出)

大正九年法律第十二號中改正法律案(政府提出)
明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出)
一昨十六日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案
ニ對シ承諾スルコトヲ議決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受
領セリ

大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕
一今十七日多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ
關スル建議案外一件委員長谷場敦君土屋與君內山
安兵衛君辭任ニ付其ノ補闕トシテ市村貞藏君本田
貞次郎君八田宗吉君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セリ
一昨十六日當任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第一部
請願委員 山邑太三郎君(與村千太郎君補闕)

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス—諮問致シマス、
丸山嵯峨一郎君病氣ニ付、三月十六日ヨリ九日間請暇
ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルコトニ御異議ハアリマセ
スカ
〔「異議ナシ」異議ナシノ聲起ル〕
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマシタ、向ホ市制中改正法律案大道寺慶男君提出、
町村制中改正法律案大道寺慶男君提出、右提出者ヨリ

撤回ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌ
カ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマシタ

○岩崎勲君 議事日程ノ變更ニ關スル緊急動議ヲ提出
致シマス、即チ茲ニ政府提出貴族院送付馬籍法案、次ニ政
府提出貴族院送付航空法案、政府提出貴族院送付無線
電信法中改正法律案ヲ一括議題トシ、其第一讀會ヲ開キ
政府ノ説明ヲ求メテ之ヲ審議シ、引續キ各々其審查ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ヲ行ハレシコトヲ望ミマス
○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ
カ
〔「異議ナシ」異議ナシノ聲起ル〕
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス仍テ日程ヲ
變更致シマシタ—馬籍法案、航空法案、無線電信法中改
正法律案、右三案ヲ一括シテ其第一讀會ヲ開キマス—山
梨政府委員

馬籍法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

馬籍法案

馬籍法

第一條 馬籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條 馬籍ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村內ニ於テ
飼養スル馬ニ付一頭毎ニ之ヲ作ル馬籍ハ編綴シテ帳
簿ト爲ス

第三條 馬籍ニハ馬ニ付左ノ事項ヲ記載ス

一 名稱

二 性別

三 種類

四 毛色

五 特徵

六 產地

七 生年月日

八 體格

九 飼養場所

十 所有者ノ氏姓名稱

十一 所有者ノ住所又ハ居所

十二 管理人アルトキハ管理人ノ氏姓名稱及住所
又ハ居所

十三 履歷

第四條 前條ノ規定ニ依ル馬籍ノ記載ハ届出ニ依リ之
ヲ爲ス但シ體格ノ記載ハ明ケ三歳以上ノ馬ニ付第
十一條ノ檢査ノ結果ニ依リ之ヲ爲ス

第五條 馬籍簿ヲ閱覽シ又ハ馬籍ノ謄本若ハ抄本ノ
交付ヲ受ケムトスル者ハ勅令ノ定ムル手数料ヲ納付シ
テ之ヲ請求スルコトヲ得

第六條 前條ノ手数料ハ市町村ノ收入トス

第七條 馬ノ所有者第二條ノ規定ニ依ル馬飼養ノ市
町村ニ住所ヲモ居所ヲモ有セザルトキハ届出及檢査ニ
關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村ニ住所又ハ
居所ヲ有スル者ヲ其ノヨリ起算シ三十日以内ニ馬
ノ管理人ト定メ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ之ヲ
届出ツヘシ

第八條 馬出生シタルトキ又ハ本法ノ適用ヲ受ケサル
馬其ノ適用ヲ受ケルニ至リタルトキハ其ノ所有者ハ其
ノヨリ起算シ三十日以内ニ第三條第一號乃至第
七號及第九號乃至第十三號ニ掲グル事項ヲ其ノ馬
籍ヲ管掌スル市町村長ニ届出ツヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ馬ノ所有者ハ
其ノヨリ起算シ三十日以内ニ其ノ旨ヲ其ノ馬籍ヲ
管掌スル市町村長ニ届出ツヘシ但シ第四號ニ該當ス
ル場合ニ在リテハ其ノ際ノ所有者ヨリ届出ツヘシ

一 馬ヲ所有スルニ至リタルトキ
二 馬ノ飼養場所ヲ他ノ市町村ヨリ移シタルトキ
三 馬死亡シタルトキ

四 第十五條第三號ニ該當スルニ至リタル場合ヲ除
クノ外本法ノ適用ヲ受ケル馬其ノ適用ヲ受ケサル
ニ至リタルトキ

五 前四號ニ掲グル場合ヲ除クノ外馬籍ニ關シ届出
ヲ要スル事項ニ變更アリタルトキ

前項第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ於ケル届出
ニハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外馬籍謄本ヲ添附スヘシ

第十條 前二條ノ規定ニ依ル所有者ノ届出ノ義務ハ
馬ノ管理人ヲ置キタル場合ニ於テハ之ヲ管理人ノ義
務トス

第十一條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ檢
査ヲ行フコトヲ得

第十二條 前條ノ檢査ヲ受ケル馬ノ所有者又ハ管理
人ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第十三條 第十一條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シ
タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 正當ノ理由ナクシテ第七條乃至第九條ノ

規定ニ依ル届出ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス
第十五條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付テ之ヲ適用セス
一 國ノ所有ニ係ルモノ
二 陸軍軍人ノ所有ニ係ルモノニシテ其ノ職務上要スルモノ
三 明ケ三十歳以上ノモノ
第十六條 本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ在リテハ區又ハ區長トシ市制ヲモ町村制ヲモ施行セサル地ニ在リテハ市町村ニ又ハ市町村長ニ準スヘキモノトス

第十七條 主務大臣ハ特別ノ事情アリト認ムル場合ニ於テハ本法ヲ適用セサル地域ヲ指定スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治二十九年法律第六十六條ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際現ニ馬ヲ所有スル者ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ第七條及第八條ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十四條ノ規定ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依ル馬名簿ハ之ヲ本法ニ依ル馬籍ト看做ス但シ本法ニ依リ馬籍ニ記載スヘキ事項ニシテ馬名簿ニ記載ナキモノハ前項ノ届出ニ依リ之ヲ記載スヘシ

航空法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

(小字及——ハ貴族院修正)

航空法案

第一章 總則

第一條 總則

本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、風、航空船及飛行機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空機トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一 日本國又ハ日本ノ公共團體

二 日本臣民

三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ
四 前號ニ掲ケタル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ
第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除ク外軍用航空機ニ之ヲ適用セス
國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ
堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス
第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ
一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ
二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命ジタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得
航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ
一 滅失又ハ破壊シタルトキ
二 解散セラレタルトキ
三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
登錄シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ
一 滅失又ハ破壊シタルトキ
二 解散セラレタルトキ
三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ
四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登録ヲ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ
第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登録證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得
第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ノ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乘員
第十五條 航空機ノ乘員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス
乘員ハ技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技術證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官

官廳ノ行フ考查ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技術證
明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ
交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乘員ハ技術證明書及航空免狀ヲ携帯スル
ニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乘員ニ對シ定期又ハ臨時ニ檢
査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令
ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乗シテ運航練習
ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シ共同シテ運
航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乘員引續キ六月以上運航ニ従
事セサルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アル
トキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ
禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ
航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ
停止中航空免狀ヲ領置ス
第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ
日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ
返付スヘシ

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變
更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セ
ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルヘシ公共ノ用ニ
供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ
又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル
飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命
令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行
政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ
目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百
「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノ
アルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識
ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持
ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日
没前ニ限り他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ
物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スル
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又
ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊
急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ
立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナ
ル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ經營者ハ運滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ
土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ
因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償ノ金額ニ關シ協議調ハサル
キハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタ
ル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得

第二十六條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規
定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除ク外軍用ニ供
スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内
ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航
空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他
人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ
於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政
官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請
求セムトスルコトハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可
ヲ受ケヘシ

第二十八條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行
政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他
人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ
離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行
場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル
場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得但シ故障若
ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ
行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮
ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ
航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ掲クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ
必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政
官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得
第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳

ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコト
ヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ
若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機
又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本
國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指
定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ
又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ
行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除ク外行政官廳
ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償
ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲ス
コトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ
限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本
航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル
飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關
スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之
ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用
法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ
納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一
時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此
ノ限ニ在ラス

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運
送並ニ之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テ
ハ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航
空機ニ依リ外國貨物ノ運送並ニ之ニ關スル犯罪事件
ノ調査、處分及處罰ニ付テ之ヲ準用ス但シ關稅法中關
港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機故障又ハ避難ノ
爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ
規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官
吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏其
ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ運滞ナク届
出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ
非サレハ離陸スルコトヲ得ス
第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル

航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付テ之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四 航空機ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七章 罰則

第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効トラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壞ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壞ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 詐術ヲ用井第五條若ハ第十一條ノ檢査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第十一條ノ檢査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ氏名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二 第十條ノ規定ニ違反シテ通航證明書又ハ登録證明書ヲ備附セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十七條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依リ登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ通航證明書又ハ登録證明書ヲ返付ヲ怠リタル者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依リ航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リタル者

前項ノ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第六十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

無線電信法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

無線電信法中改正法律案

無線電信法中左ノ通改正ス

第一讀會

第二十九條

本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

第三十條 本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員山梨半造君登壇 拍手起ル〕

○政府委員(山梨半造君) 馬籍法案提出ノ理由ヲ述ベマス、馬ノ系統ヲ登錄致シマシテ、又常ニ馬ノ情勢が如何ニ在ルコトヲ云フコトヲ明カナラシムルコトハ、軍事上頗ル必要ナノデアリマス、ソレハ動員並ニ補給計畫ノ基礎ヲ確立スルカラデアリマス、又産業上ニ於テハ、馬政ノ的確ヲ期スルコトハ勿論、馬ノ取引ノ構成圓滑ヲ圖リマシテ、又馬ノ利用ヲ振起スル爲メニ、國防上並ニ産業上ノ振起、共ニ現下急務ニ屬スル所デアリマス、疑ニ明治二十九年法律第六十六號ヲ以テ、馬匹ノ調査並ニ検査ニ關スル法律ヲ制定セラレデアリマス、其規定ハ未ダ馬籍ノ設定ニ及バヌ爲メニ、其效果ガ不十分ナノデアリマス、ソレデアリマス、民間ニ於テモ、其馬籍法ノ必要ヲ認メマシテ、當業者カラ屢、政府ニ建議致シテ居リマス、現ニ地方ニ依リマシテハ、既ニ此馬籍ノ取締規則ヲ定メテ居リマス、所モアルノデアリマス、利不便ノ所ガ尠クナイノデアリマス、ソレデアリマス、是等ヲ統一スル爲メニ此法令ヲ定メ、サウシテ却テ之ニ關係スル所ノ手續ヲ省略スルコトヲ云フコトノ必要ヲ認メマシテ、本案ヲ提出シテ次第デアリマス、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ願フ次第デアリマス、(拍手起ル)航空法提出ノ理由ヲ申上ゲマス、現時我國ニ於キマシテ、民間航空事業ハ、逐次發達ノ緒ニ就テ居リマシテ、現ニ此航空ノ運送事業ノ設計者モアル次第デアリマス、又我國ニ於ケル國際航空事業ノ現況ハ、近ク帝國ト外國トノ間ニ空中ノ交通ヲ促ス趨勢ニ在リテ、一日モ忽ニスルコトハ出來ナイノデアリマス、ソレデアリマス、スカラ我カ航空事業ノ堅實ナル發達ヲ遂ゲシムル爲メ、又ハ空中取締法ノ遺憾ナキヲ期センガ爲メニ、本案制定ノ必要ヲ認メテ居リ次第デアリマス、此本法案ハ、大要航空機ノ國籍、検査、登録、操縦者ノ資格、飛行場ノ設置、維持、使用、航空及運送等ニ關係致シマシテ、軍事上、保安上、又官制上ノ取締ト、航空ノ保護助長等ニ關スル規定ヲ定メテ居ルノデアリマス、大體平和會議ノ際ニ協定致シマシタ所ノ、航空ニ關スル國際條約ニ準據シテ立案シタモノデアリマス、右申上ゲマシタ國際航空條約ハ、既ニ昨年六月帝國政府ニ於テハ調印致シマシテ、近ク御批准アル運ニナリ居ルノデアリマス、御批准ノ上ハ、日本ニ於テモ其條約ハ效力ヲ及ボス

ノデアリマス、カラシテ、此際本法案實施ノ緊要ヲ認メテ居リ次第デアリマス、ドウゾ十分御審査ノ上ニ、御協賛アラシコトヲ切望致シマス、(拍手起ル)

〔政府委員泰豐助君登壇 拍手起ル〕

○政府委員(泰豐助君) 此無線電信法中改正法律案ハ、航空機ニ設置致シマスル通信裝置、即チ無線電信並ニ無線電話ニ就キマシテ、規定ヲ設ケル必要ヲ認メマシテ、提出致シタ次第デアリマス、是ハ、航空機ヲ船舶ト看做シマシテ、船舶ニ關スル所ノ無線電信及無線電話ノ取締ノ規定ヲ之ニ適用シヤウト云フ次第デアリマス、宜シク御審議ノ上協賛アラシコトヲ希望致シマス

○議長(奧繁三郎君) 右三案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 第一案ノ馬籍法案ハ委員ノ數ヲ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ之ヲ指名セラレンコトヲ望ミマス、第二第三案ハ一括シテ之ヲ荒川五郎君外六名提出、非役壯丁稅法案外一件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成「下呼」者アリ〕

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「下呼」者アリ〕

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第一、埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長竹上藤次郎君

第一 埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案

(粕谷義三君外七名提出)

第一讀會ノ續(委員長)(確定議)

報告書

一 埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案(粕谷義三君外七名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十六日

埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案委員長

竹上藤次郎

衆議院議長奧繁三郎殿

○竹上藤次郎君 粕谷義三君外七名ヨリ提出サレテ居

リマスル所ノ、埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案ノ委員會ハ經過並ニ結果ヲ御報告申下ゲマス、本日ハ重大ナル案件ガ出テ居リマシテ、殊ニ會期切迫ノ際未了議案ガ澤山アリマス、ノデ、簡單ニ報告申上ゲマス、(ヒヤ) 由來政府ハ此區域變更等ニ關スルモノハ、多ク望マザル所デアリマス、又吾々モソレニ賛成ヲ表スル者デアリマス、此埼玉縣ノ郡界變更ニ關スル如キモノハ、最モ其必要ヲ認メマス、何故ナラバ其地勢及交通、或ハ産業郵便、電信、其他警察等ノ區域ニ就キマシテ最モ必要ヲ感ジマシタガ故ニ、委員會ハ滿場一致ニ之ヲ贊成ヲシタノデアリマス、殊ニ今回ハ珍シクモ縣下選出ノ代議士諸君モ全部賛成ヲサレ、殊ニ政府ハ之ニ對シテ多大ノ賛成ノ御言葉ヲ表シテ居ラレルノデアリマス、故ニ、委員會ハ之ニ滿場一致ノ賛成ヲ致シマシタノデアリマス、ドウカ此三百年來ノ村民ノ希望ヲ容レラレマシテ、滿場一致可決確定セラレンコトヲ希望致シマス、(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ讀會ノ順序ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定アラシコトヲ望ミマス

〔贊成「々々」ノ聲起ル〕

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ノ聲起ル〕

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク委員長報告通り可決確定致シマシタ、(拍手) 日程第二決議案ヲ議題ニ致シマス、提出者趣旨辯明ハ早速整爾君デアリマス、早速君

第二 決議案(南滿洲鐵道會社ニ對スル監督責任ノ件)(箕浦勝人君外七名提出)

決議案

南滿洲鐵道株式會社内部ノ紊亂ニ對シ政府ハ監督ノ任ヲ怠リ倍々其ノ情弊ヲ助長シ綱紀ノ頹廢其ノ極ニ達セリ政府ハ宜シク之カ責ニ任スヘシ

〔早速整爾君登壇 拍手起ル〕

○早速整爾君 私ハ本決議案提出ノ趣旨ヲ説明致シマス(聞エヌ)「黙」ト呼フ者アリ 決議案ハ「南滿洲鐵道株式會社内部ノ紊亂ニ對シ政府ハ監督ノ任ヲ怠リ倍々其ノ情弊ヲ助長シ綱紀ノ頹廢其ノ極ニ達セリ政府ハ宜シク之カ責ニ任スヘシ」ト云フノデアリマシテ……

〔高聲ニ「別リマセヌ」默「ト」呼ヒ其他發言者多シ〕

○議長(奥繁三郎君) 靜ニ...

○早速整頓君(續) 最近ニ世上ニ喧傳ヲセラレテ居リマスル(珍品五萬圓)ト呼フ者アリ。滿鐵會社ノ一大醜態ニ對シ、政府ノ責任ヲ問ハント欲スルモノデアリマス。(己ノ毒ヲ去レヨ)トセラレドウスルノダト呼フ者アリ。滿鐵會社ハ申スマデモゴザイマセヌ、半官半民ノ株式會社デゴザイマセヌレドモ、我が國家ノ最大重要ノ機關デアアル、帝國ノ滿蒙經營ヲ事實上一手ニ引受ケテ居ルノデゴザイマセヌカラ、其事業ト云ヒ、其使命ト云ヒ、(ソシナ事ハ判リテ居ル)ト呼フ者アリ。洵ニ重大ナルモノアリト申サナレバナリマセヌ、明治三十七八年(ソレガドウシタ)「山猫默レ」ト呼フ者アリ。帝國ト致シマシテハ千古未會有ノ大戰ヲ開キ、十萬ノ生靈ヲ犠牲ニ供シ、二十億ノ近キ國帑ヲ費シ、所謂國民の大動員ノ結果トシテ贏チ得タル收穫ノ結晶トモ申スベキモノ(ソレガ珍品ウイ)ト呼フ者アリ。笑聲起ル。世ニ明治大帝ノ遺シ給ヒタル國家ノ最大事業ト稱スルモノ、決シテ偶然デアアリマセヌ(拍手起ル)。單ナル一營利會社ヲ以テ目スルコトハ出來ナイ、單ナル一株式會社ヲ以テ目スルコトハ出來ナイ、洵ニ(堂々高聲ニヤレ)ト呼フ者アリ。國運ノ消長ニ關スル重大ノ使命ヲ有スル所ノ(政友會靜肅ニ)ト呼フ者アリ。國家ノ公益機關デアリマス、隨テ之ニ對スル監督ノ責任ガ頗ル重大デアアルト云フコトハ、何人モ異論ノナキ事デアリマセウ、創立以來十七箇年ヲ經過シ、四億四千萬圓ノ資本ヲ擁シテ、社債ノ發行高モ一億四千五百萬圓ニ及ンデ居ルデアリマス(氣勢揚ラズ)ト呼フ者アリ。斯ル巨額ノ資力ヲ擁シテ居ルニ拘ラズ(株主總會デアリマセヌ)ト呼フ者アリ。其割合ニ事業ノ發展意ノ如クナラズ、滿蒙經營ニ關スル積極的施設十分ナラズシテ此機關ノ使命ノ遂行ニ遺算ガ頗ル多イト云フコトハ、諸君ト共ニ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイ所デアリマス。ガ(拍手起ル)「ノウ」ト呼フ者アリ。更ニ爰ニ其内部ノ紊亂甚シキヲ致シテ、驚クベキ醜怪ノ事實ガ(オ前ノ方ハドウダ)「珍品」ト呼フ者アリ。吾ニ「眼前ニ暴露セラル、ヲ見ルニ致リマシテハ(拍手起ル)洵ニ痛憤慨嘆ニ堪ヘナイデアリマス(珍品々々)ト呼フ者アリ。今や滿鐵會社ハ百鬼夜行ノ伏魔殿ト稱セラレテ居ル(拍手起ル)而モ其原動力ガ何レニ在ルカト云フコトニ就キマシテハ、(加藤總裁)ト呼フ者アリ。洵ニ怪ムベキ消息ヲ有スルニ於キマシテ吾ニハ實ニ國家重大ノ問題トシテ、其責任ヲ糾彈セザルヲ得ナイデアリマス(拍手起ル)隨分思切タル亂暴ナ遣方ヲヤテ居ルデアアル(御手紙ノ通り)ト呼フ者アリ。成程此機關ト云ハ勢力トガ結託ヲ致シマスレバ、私ヲ營ムト云フ上ニ於テモ、如何ナル事デモ出來ナイコトハナイデアリマセウ(拍手起ル)因襲久シキニ互テ居ル事デアリマス

ガ、現内閣成立後、關東廳其他ノ官制ニ改革ヲ施シテ滿鐵内部ノ組織ヲ改メ、其幹部ヲ更迭セシメテ以來、此弊害ト云フモノハ甚シク助長セラレタデアリマス(拍手起ル)私ハ仍テ茲ニ其事實ニ就テ概要ヲ申述ベナケレバナリナイデアリマス、第一ハ塔連炭礦ノ不正買収ニ關スル問題デアリマス、此問題ハ滿鐵ノ幹部ノ者ガ、故ラニ秘密ノ裡ニ塔連炭礦ヲ不當ノ代價ヲ以テ買収シタト云フ事實ニ歸著致スデアリマス、昨年ノ四月此問題ハ卒然——私ハ敢テ卒然ト申ス、東京ニ於テ實際的ノ問題ト化シテ、五月ノ四日ヲ以テ其實買ノ契約ガ成立ヲ告ゲテ居ルデアリマス、是ハ滿鐵會社ノ中西副社長、塔連炭礦ノ或ル權利ヲ繼承シテ居ル所ノ東洋炭礦株式會社森專務取締役ト間ニ契約ガ締結セラレタデアリマス、其當時滿鐵會社ニ於テハ、此塔連炭礦ヲ買収セザルベカラザル、必要急ニ迫テ居リタカト申シマスルノニ、決シテ然ラズ、寧ろ滿鐵會社ハ其反對ニ此炭礦ヲ買収スベキ、必要急ニ迫テ居ルデアリマセヌ、辯ズル者ハ曰ク、滿鐵會社ガ鞍山ノ製鐵所ヲ經營シテ居ル以上、此塔連炭礦ヲ買収スルコト云フコトハ蓋シムヲ得ナイデアアル、滿鐵會社ノ辯明書ニモ左様ニ認メテアルデアリマス、併ナガラ諸君、鞍山製鐵所ノ現狀ハ果シテ如何デアリマス、此製鐵所ハ四千萬圓ト云フ多額ノ資本ヲ投ジ、二箇ノ塔連炭礦ヲ掘付ケテ置キナガラ、今や一大蹇跌ヲ來シテ、一ツノ塔連炭礦ハ全ク事業ヲ中止シテ居ルト云フ狀況デアリマセヌカ、是ハ製鐵所ノ當初ノ計畫ガ頗ル無謀デアタ、其計畫ガ頗ル粗漫デアタ結果デアアル(ノウ)「遠キ將來ニ於テ根本的改革ヲ施シタル後ノ事ナラバ知ラズ、現在ニ於テハ鞍山製鐵所ノ狀況ハ、私ガ只今申シマシタヤウナ窮況ニ陥テ居ルデアリマス、即チ「コークス」ノ供給ヲ求ムルガ爲メニ、將ニ塔連炭礦ヲ買収セザルベカラザル必要ハ無イデアアル、況ヤ撫順ノ炭礦ハ最近ニ其規模ノ擴大ヲ致シタト云フ事實モアリマス、出炭量ハ頗ル増加シテ參リ、一日一万噸乃至一万二千噸、年額三百六十萬噸、而シテ現ニ多量ナル石炭ノ過剩ヲ擁シテ、殆ド其處置ニ苦シテ居ルノ事實ガアルデアリマセヌカ、昨年ノ如キ撫順炭礦ハ内地及關平炭ト協商ヲ開イテ、一ノ石炭ノ「シンヂゲイト」ヲ作シテ、販路ノ協調ヲシナケレバナラズト云フヤウナ境遇ニ陥ッテ居ルデアアル、石炭ノ過剩頗ル多量ニ而シテ此撫順ノ石炭ハ「コークス」ヲ製造スルニハ最も適シテ居ルデアリマセヌカラ、滿鐵會社トシテハ、別ニ新タニ塔連炭礦ヲ買収シナケレバナラズト云フ必要ニハ迫テ居ラヌデアアル(拍手起ル)又本溪湖ノ煤鐵公司ニ於キマシテモ、一部ノ塔連炭礦ハ火ヲ落シテ居ルト云フ狀況デアリマス、此方面ニ於テモ石炭ハ非常ノ過剩ヲ示シテ居ルデアアル、滿鐵會社トシテハ鞍

山ノ製鐵所トシテ、特ニ塔連炭礦ヲ買収スル必要ガ迫ッテ居ラヌト云フ是ガ事實ノ證據デアアル、尙ホ況ヤ龍鳳炭礦ハ、裕ニ此鞍山製鐵所ノ需要ニ應ズルダケ「コークス」ト云フモノヲ製造スルニ適シテ居ルデアリカ、遠キ將來ハイザ知ラズ、現在ニ於キマシテハ、滿鐵會社ガ此塔連炭礦ヲ買収シナケレバナラズト云フ必要ハ斷ジテ無イデアリマス、(拍手起ル)滿鐵會社ノ辯明書等ニ依リマセヌレバ、遠キ將來ノ事ヲ論ジテアルデアリマスガ、遠キ將來ノ事ハ是ハ論外デアアル、此辯明書ニ依リマシテモ、殊更ニ此問題ハ二箇年前ヨリ懸案デアアルト掲ゲテアル、二箇年前ヨリ滿鐵會社ハ、此塔連炭礦ヲ買収スルノ意ガアタト云フコトヲ辯セラレテ居ルデアリマスガ、是ハ全ク後ニ至ッテ作ラレタル所ノ、出鱈目ノ言葉デアアルト私ハ思フ(ノウ)「拍手起ル」一昨年ノ十一月六日、是ヨリ先キ東洋炭礦會社ガ滿鐵會社ニ對シテ、第二回ノ借入金ヲスル其保證ノ要求ヲ爲シタルニ對シテ、十萬圓ノ借入金ノ追加ノ保證デアリマス、此保證ヲ滿鐵會社ガ拒絕ヲシタ、其拒絕シタル所ノ案ノ理由書ヲ爰ニ私ハ朗讀ヲ致ス(謹聽)ト呼フ者アリ。目下鞍山製鐵所ニ於テ炭炭用トシテ塔連炭礦ヲ一部使用シ居ルモノ假リニ同炭ヲ使用セズトスルモノ炭炭用トシテ關平炭本溪湖炭各六萬噸位ノ供給ヲ受クルコトヲ得ルハ確實ナリ而モ撫順龍鳳炭炭モ亦炭炭用トシテ塔連炭礦ト同列ニ使用シ得ベキヲ以テ若シ必要アラバ是ガ増掘ノ方法ヲ執レバ足ルヘシ」滿鐵會社ニハ必要ガ無イト云フコトヲ以テ現ニ明カニ之ヲ證言シテ居ルデアリマス、其追記ニ「鞍山製鐵所用「コークス」ノ爲メニ塔連炭ヲ必要トセザルコトニ付テハ製鐵所次長トモ打合セ濟ナリ」立派ニ塔連炭礦ヲ必要トシナイト云フコトハ結論ヲセラレテ居ルデアアル、矢張其當時撫順ノ炭礦次長カラ滿鐵ノ松本理事ヘ宛テタル電報ガアル

○議長(奥繁三郎君) 發言ヲ許シマセヌ

○早速整頓君(續) 「塔連ヨリ出炭セストモ現在龍鳳坑ノミニテ日々八百噸ノ出炭ヲ爲シ得ヘク鞍山塔連炭礦ニ基分所要炭炭用トシテ十分其需要ヲ充タシ得ヘク決シテ塔連ノ助力ヲ要セサルナリ」斯様ニ斷言ガシテアルデアリマス、唯ダ此文書ニ依リテ見マシテモ、塔連炭礦ガ鞍山ノ製鐵所ニ對シテ、目前ニ於テ必要デアアルト云フコトハ、何人ト雖モ之ヲ辯ズルコトハ出來ナイデアリマセウ(拍手起ル)諸君、斯様ニ必要急ニ迫ラザルニ拘ラズ、是ハ又實ニ法外ノ高價ヲ以テ賣買ヲセラレタデアリマス(法外デハナイヨ)ト呼フ者アリ(二百二十萬圓——洵ニ驚クベキ不當ノ價ナリト斷言シナケレバナラヌ)「拍手起ル」此炭礦ハ十七萬二千四百七十二坪ト云ヘル小坑區ニ過ギナイ、滿鐵ノ辯明書ニ

圓近キ違約金ヲ支拂テ居ル(其中五萬圓取ツカ)
ト呼フ者アリ)違約金ヲ支拂テ居ラナイト彼等ハ辯解ヲシ
テ居ルノデアルガ、成程滿鐵會社ガ違約金ヲ直接ニ支出ス
ルト云フナラバ、滿鐵會社ノ帳簿ニ載ル是ニ於テ此違約金
ヲ、故ラニ内田信也ノ手カラ支拂ハセタト云フ狡猾ナル手
段ヲ執テ居ルノデアルマス(拍手起ル)内田信也カラ違約
金ヲ拂ハセ、内田ノ船ヲ高ク買フ、滿鐵會社ガ支拂タノト
是ハ同然デアル諸君、前ニ契約シタモノヲ破棄シ、隱密
ノ間ニ違約金迄支拂タ新タニ内田信也ト契約シタ理由
ハ何所ニ在ルカ、六千三百噸ノ船デハ小サイ、八千五百噸
ノ船デナケレバナラヌト云フ理由ガアルカト云フニ、決シテ然
ラズ、元來支那沿岸ノ航海ハ、多クハ小型ノ船ヲ用井テ居ル
デアリマス、實際ヲ言ヘバ六千三百噸ノ船デモ、是ハ大キニ失
スル位ナノデアル、八千五百噸ノ船ハ、實際上ニ於テ殆ど利
用ノ方法ニ苦シムノデアル(「ノウウ」君等ニ判ルカ)加
藤高明ガ泣イテ居ルゾト呼フ者アリ)此滿鐵會社ノ辯明
書ハ、餘程窮シタ言葉ヲ以テ辯明ヲシテ居ルノデアリマス、
「若シ」若シ運賃割高ナル歐米行豆類其他ノ貨物アレバ
臨時之ヲ配船シ歸航ニハ鐵類ヲ輸入スル計畫ノ下ニ、依テ
セリ云々、是モ後ニ至テ辯解材料ノ爲メニ作製セラレタ
辯明書ナノデアル、八千五百噸ノ船ヲ注文スルニ、若シ運賃
割高ナル歐米行豆類其他ノ貨物アレバト假定シテ居ル、
斯ウ云フ理由ノ下ニ八千五百噸ノ船ヲ買テ居ルト云フコ
トハ、如何ニモ奇怪極マルト謂ハナケレバナラヌデハアリマセ
ヌカ、(拍手起ル)大連汽船會社ハ「現ニ書イテアル、近海
航路ニモ用井得ベク、又新嘉坡瓜哇南洋等ノ遠洋航路ニ
モ使用シテ、砂糖穀類等ヲ運搬シ得ベキト度手頃ノ船ヲ要
求シテ、田中未雄ト契約ヲ締結シタノデアル、此手頃ノ船ト
ノ契約ヲ破棄シ、而シテ八千五百噸ノ船ニ乘換ヘタト云フ、
八千五百噸ノ船ハ、是ハ近海航路ニ對シテハ絕對ニ役ニ立
タヌノデアリマス、ソレデアルカラ大連汽船會社ノ内部ニ於
テモ非常ナリ異論ガ生ジテ、現ニ汽船會社ノ社長タル塚本貞
次郎氏ノ如キハ、此八千五百噸ノ船ヲ買入ト云フコトニ對
シテハ非常ナリ不平ヲ鳴ラシ、斯様ナル船ハ殆ど利用ノ方法
ガ無い、已ムヲ得ズシバ之ヲ「チャーター」スルヨリ他ニ仕方
ガナイガ、是ハ會社ニ取テハ頗ル不利益デアルト云フ議論
ヲ唱ヘテ居ル、斯様ニ不用ナル役ニ立タヌト云ハレテ居ル程
ノ船ガ、而モ洵ニ高キ價ヲ以テ買收セラレタト云フニ至ッテ
ハ、諸君、實ニ驚カザルヲ得ナイ事デアリマセヌカ、(拍手)
此船ノ價額當リ三百二十五圓、平均二百七十六萬二千
五百圓ト云フ代價ニナルノデアリマス、私ガ申スマデアリ
マセヌ、其當時ハ船ノ價ハ日ニ月ニ低落ヲ致シテ——日ニ月
ニ低落ヲ致シ、現ニ昨年五月ノ時價ト云フモノハ、噸當リ

二百七十五圓ト云フコトヲ稱セラレテ居タノデアリマス、大
阪商船會社ニ對シテ、内田信也ガ噸三百圓デ同ジ型ノ船
ヲ同ジ時ニ納メテ居ルト言フ、併シ其當時石川造船所ニ於
テハ、噸二百五十圓デ二隻ノ建造ヲ請負ウタト云フ事實モ
アルノデアリマス、三百二十五圓ト云フ噸當リハ、其當時ノ
時價ニ對シテハ頗ル高價ニ失シテ居ル、(拍手)田中未雄ノ
分ニモ矢張三百二十五圓デアラタノデアリマス、田中トノ契
約ハ二月十日——時ガ違フ、而モ田中未雄トノ契約ハ鐵ノ
單價ノ高下ニ依ッテ高下スルト云フ契約ガ附加ヘラレテ居
ル、全ク内田信也ノ汽船ト田中未雄ノ汽船トハ、問題ガ違
フト云フコトハ御諒解ヲ得ナケレバナラヌノデアリマス、(拍
手)爰ニ大連汽船會社社長塚本貞次郎氏ノ直話ナルモノガ
アルノヲ私ハ御紹介スル、(神戶ニ於ケル海運業ノ關係者
ハ皆ナ言フ彼ノ船ハ日本國中持廻リシ有名ナル札付ナリ
彼ノ船ハ神戶ニテ或人ハ噸二百六十圓ニ付ケタル歴史ア
リ彼ノ船ハ二百八十圓ナラ喜シデ賣ル船ナリ併シ内田モ
弱切テ居ル昨今ノコト叩ケバ二百七十圓ニハスル人助
ケト思ハ、二百七十五圓デアラタレベシ、(五萬圓ノ出所
ガナイカラ)ト呼フ者アリ)塚本氏ハ、予ハ先ヅ二百七十五
圓ヲ相當ト思タ、然ルニ内田氏ハ是非共三百二十圓ニ
買テ戴キタイト言タ、然ルニ滿鐵ノ幹部ニ於テハ、既ニ三
百二十五圓ト云フ決定ヲシテ居タト云フ、内田自身ガ三
百二十圓ニト頼シタノニ、滿鐵ノ幹部デハソレ以上ノ價ニ
決定シテ居タト云フコトデアル、(拍手)大連汽船會社ノ矢
張事務取締役ヲシテ居ル松原進ハ「三菱ノ船ト内田ノ
船トハ其優劣ニ付キ世既ニ定評アリ而シテ八千五百噸ノ
價額ガ六千噸級ノ船ト同ジク一噸當リ三百二十五圓ト云
フハ當ヲ得ズ而モ内田ハ當時資金ニ窮シテ四苦八苦シ居
タル際ナルニ於テヤハ八千五百噸ノ者ハ固ヨリ利用方法ア
ルコトナシ當會社ノ厄介物トシテ始終持餘スノ外ナカルベ
シ我等取締役ノ間ニハ未ダ之ガ利用ノ途ヲ知ル者ナシ恐
ラクハ備船位ノコトナルベシ然レドモ其責任ニ就テハ當會
社重役ノ間知スル所ニ非ズ滿鐵ノ幹部ヨリ強制的ニ命令
セラレテ購入シタル此汽船ナレバ其利用方法ハ賢明万能
ナル中西副社長ノ指揮アルコトナルベシ、(拍手)斯ウ云フ實
際上ノ直談ガアル、(信用出來ナイ)ト呼フ者アリ)私ハ更
ニ參考ノ爲メニ大連汽船ノ塚本社長田中トノ契約ヲ無視
セラレテ、東京ニ上ッテ談判ヲシツ、アル際ハ、滿鐵社長ノ
言タ言葉ト云フモノ、御紹介ヲ致シテ置キタイノデアリマ
ス、野村社長曰ク「實ハ内田ノ船ヲ買テ吳レト頼マレテ略
取極メタレバ何トカシテ田中ノ方ノ解約ヲ願ヒタシ」又後日
ニ至、テノ話デアリマス、或筋ヨリ副社長ガ依頼ヲ受ケテ内
田ノ汽船ヲ買フコトニ約束セシ次第第二テ予ハ何モ知ラザレ

ドモ君ニ迷惑ヲ掛ケ相濟マヌ譯デアアルガ宜シク頼ム、(拍手)
中西副社長ノ談ニ曰ク「予ハ何モ知ラザリシガ此問題ハ社
長ガ原サンニ依頼セラレテ引受ケ、來リシ爲メ已ムヲ得ザリ
シ次第ナリ、(拍手)何卒十分幹旋ヲ乞フ、(ソノナ事ハ信用
出來ナイ)ト呼フ者アリ)信用スルトシナイトハ個々ノ意見ニ
委ジマス——滿鐵ノ運輸次長大倉公望男ノ談ヲ、私ハ更ニ
御紹介致シテ置ク必要ガアル、(勝手ニ作タモノ)ガ何ガ證
據ニナル、ト呼フ者アリ)政黨ト云フモノハ、斯ル事ヲ爲スモ
ノ、又爲サネバナラヌト云フコトヲ諒解シマシタ、本回ハ總
選舉アリシガ爲メニ政友會ニ於テモ巨額ノ運動費ヲ費シ自
然我ガ幹部ニ於テモ斯ク多數ノ不祥事ヲ餘儀ナク爲セシ
モノ、如クナレバ恐ラク今後ハ敢テ爲シ得ザルベシ云々、(拍
手)「貧窮ナ材料ヲ列ベルナ」ト呼フ者アリ)第三ニ申上ゲナケ
レバナラヌノハ、電氣化學工業會社、此電化工場ハ大正四年ニ成立
收ニ關スル事件デアリマス、此電化工場ハ無償ヲ以テ電力ヲ供
給シテ、其工場ニ於テ產出セル、硫酸安母尼亞ノ利益ヲ半
分提供スルト云フ約束ノ下ニ、此會社ノ工場ガ成立致シタ
ノデアリマス、近頃石炭ノ騰貴ニ伴レテ、電力ノ原價ガ頗ル
暴騰スルコトニ相成リ、ソレト反比例ニ硫酸安母尼亞ノ價
格頗ル低落ヲ告グルコトニ相成リマシタ爲メニ、電化會社モ
經營難ニ陥リ、滿鐵會社モ非常ニ失フ所ガ多イト云フコト
ノ結果、此撫順ノ工場ヲ閉鎖シテ、閉鎖シタル工場ヲ滿鐵
會社ニ買收スルト云フコトニナツタ其事實デアル、此契約
ハ昨年六月二十日ヲ以テ締結セラレタノデアリマス、工場
ノ建坪ハ工場、倉庫、社宅、事務所等五棟、一万坪ニ過ギ
ナイノデアリマス、機械ハ電化會社ガ之ヲ持シテ逃ダク、此建
物タケデ以テ、二百十五萬圓ト云フ價額ノヲ買收致シタノ
デアル、如何ニシテモ之ヲ正當ナル價ト申スコトハ出來ナイ、
(君ガ滿鐵ヲ論ズル資格ナシト呼フ者アリ)
○議長(奧繁三郎君) 靜ニナサイ
○早速整爾君(續) 此計算ノ基礎ニ關シマシテ、滿鐵ノ
發シタル辯明書ニ就キマシテハ、頗ル疑フベキモノガアル、此
辯明書ハ頗ル疑フベキモノガアル、此辯明書ニ依リマスレバ
工場、倉庫、社宅、其他物件ヲ皆ナ内輪ニ見積デモ、九十
萬圓以上ナリト稱シテ居ル、ソレカラ送電裝置ニ依ル損害
ノ賠償額ヲ二百二十五萬圓ニ當ルト云フ、併セテ二百十五
萬圓ト云フコトニナルノデアリマス、而シテ其説明ノ送電ヲ
繼續スレバ、一箇年損失額ガ百萬圓以上ニ互ルト云フコト
ガ説明シタルノデアリマス、全ク出鱈目デアル、(君ノ言フ
ノト同ジダト呼フ者アリ)杉山政府委員ガ本員ノ質問ニ對
シテ、豫算委員會デ非常ニ綿密ナ答辯ヲシテ居リマス、其答
辯ニ依レバ、社宅ト暖房ハ先ヅ見積デ四十萬圓、工場ト建

物々三十一萬圓、併せて七十一萬圓、七十一萬圓ノ最高
値ニ杉山政府委員ハ見積リテ、滿鐵會社ノ書類ヲ以テ長
ト説明シテ居ル、此辯明書ニ依レバ——内輪ニ見積リテ五
十萬圓以上、同ジ會社カラ出タ説明(同ジ會社カラノ辯明
書、僅カノ日ノ間ニ是ダケノ金額ガ違フト云フコトハ、何事
ヲ語ルノデアルカ(拍手)又送電ノ續續スルニ依テノ損失
ハ、杉山君ノ説明ニ依レバ、三年間大正二年——大正十二
年九月マデ九十三萬圓、三箇年間九十三萬圓、此辯明
書デハ一年デ百萬圓以上ダト、斯ウ説明シテアル、(拍手起
ル)同ジ政府ノ部内ノ人、同ジ滿鐵部内ノ人ガ、僅ニ二十
日カ三十日ノ中ニ於テ是ダケ計算ノ變テ來ルト云フコトハ
果シテ何事ヲ語ルノデアルカ(拍手起ル)殊ニ杉山政府委
員ハ、私ガ二百二十五萬圓ト云フコトヲ言フノ打消シテ、結
局ハ八百四十萬四千三百圓デ買ツタト明言シテ居ル、立派ニ
明言シテ居ル、是ガ即チ二百二十五萬圓デ買ハレタト云フニ
至テハ、諸君、洵ニ吾々ハ諸君ト共ニ驚カザルヲ得ナイデハ
アリマセヌカ(拍手起ル)此辯明書ノ中ニハ書イタル、斯ウ云
フコトガ評價ノ基礎ニナリテ居ル、此工場ヲ買収スル場合ニ
ハ、電化會社ハ外ニ工場ヲ建設シナケレバナラヌ、之ヲ建設
スル爲メニハ、機械ヲ除イテモ三百五十萬圓要ルカラ、其三
百五十萬圓ノ土臺ニシテ折衝ノ結果二百五十萬圓ニ決
シタト云フ、餘所ノ工場ヲ建設スルノ、其工場ガ他ニ移轉
スル——建築スルト云フ費用ノ、之ヲ標準ニシテ折衝スルト
ハ何事デアル、滿鐵會社ガ己レノ利害ヲ棚ニ上ケテ、賣方ノ
利益ヲノミ、圖ツテ居ルト云フコトハ、此辯明ニ依テモ判
居ル不當ニ買収セラレタト云フコトハ、洵ニ明白デハア
リマセヌカ(拍手起ル)私ハ此電化工場ノ評價ニ關シテ責任
アル撫順ノ炭礦次長カラ、井上炭礦長ヘ發シタ電報、是ハ
昨年ノ五月十九日附デアル、此電報ヲ朗讀シテ諸君ノ御
判斷ノ參考ニ供シタイト思フ「今日マデ電化ハ百萬圓餘ノ
利益ヲ得當礦ハ四十二萬圓餘ノ損失ヲ來タシ今後モ損失
ヲ大ナラシムル虞アリ是レ畢竟當初豫想セシ事情ノ激變ニ
基因スルヲ以テ先方ニ於テ德義上契約ノ本旨タル損益共
同分擔ノ趣旨ヲモ尊重シテ解約ノコトニ御懇談ヲ願フ——
解約ノコトニ御懇談ヲ願フアレガ爲メニハ當方モ好意ヲ以
テ財產ヲ引取ルヘク社宅、暖房ハ原價ノ二倍ナル約四十萬
圓工場ハ當礦ニ使用ノ途ナキモ原價三十萬圓ニテ引取ル
ヘシ」之ガ丁度杉山君ト能ク似テ居ル、機械其他先方ニテ
處分スルモノハ八十萬圓ト評價スレバ先方ニハ少シモ損害
ナキコト、ナリ當方ハ硫酸コークス工場ノ興業費ノ損失ヲ
負擔スル譯ナリ若シ先方不同意ナレバ情誼ヲ捨テ、契約ノ
條項ニ依リ自衛上策ヲ執ルコト當然ナリ即チ契約第十一

條ニ依リ工場建設費ノ二分ノ一即チ六十五萬ヲ賠償シテ
解約スルモ可ナリ」是ハ六十五萬トアル、或ハ契約第一條
ニ依リ出來得ルタケ最低送電料ヲ低減スルモ可ナリ若シ先
方カ之ニ不同意ナラバ最低送電料ニ滿タサル電料ニ對シ
契約第七條ニ依リ賠償金ヲ支拂フモ可ナリ同條ニ依レハ
賠償金ハ一キロワット五瓦ノ定メナレハ概リ五千四百キ
ロワット全部ヲ停電スルモ年額二十萬圓餘ニ過キス」之ガ責
任アル炭礦次長ノ電報デアリマス、斯様ナル意見ガアルニ拘
ラズ、斯様ナル見解書ガアルニ拘ラズ、二百二十五萬ト云フ不
當ノ高價ヲ以テ買入レタト云フニ至テハ、諸君、洵ニ言語
道斷ノ事實デアルト斷言ヲシナケレバナラナイデハナカ
手起ル)以上ノ事實ヲ綜合シテ見マスルト、私ガ三箇ノ問題
ヲ舉ゲテ陳述ヲ致シタルデアリマス、何レモ皆ナ必要急ニ迫
テ買収シナケレバナラヌト云フ事業デモ、何デモ急ニ急
モノダ、而モソレヲ不自然ニモ會社自ラノ不利益ヲ顧ミズシ
テ、不當ノ高價ヲ以テ買入レタト云フコトニ歸着致スノ迫
リマス、而シテ諸君、其當時滿鐵會社ハ非常ニ金融ニ逼迫
ヲ告ゲテ居ル際デアル、當時滿鐵會社ノ資金ニ窮シテ居
之ニモ書イタル、從業員等ノ給料ノ支拂ニマダ窮シテ居
タト云フノガ其當時ノ事實デアリマス、社長以下重役ハ悉
ク東京ニ集テ百萬金融ノ策ニ苦心シテ、現ニ大藏省ニ泣
付イテ、預金部ノ金デゴザイマセウ、興業銀行カラ千六百萬
圓ト云フ金ヲ一時借入ヲ爲シテ居ル、其他組合銀行カラモ
多額ノ借款ヲ爲シテ、僅ニ一時ヲ彌縫シタト云フ事實ハ、
是ハ天下何人モ知ラナイ者ハ無イ(拍手起ル)ソレ程滿鐵
會社ハ資金ニ窮シテ居タル事實デアリマスガ、此資金ニ窮シ
テ居タルト云フ事實ハ、滿鐵會社ノ副社長モ之ヲ認メテ居
ルデハナカ、私ハ副社長ノ談話ヲ以テ、滿鐵會社ノ窮乏ノ際、
殊ニ總選舉前其運動費ニ困ルノデ、或者ニ取付テ三十萬
圓塔連炭礦——三十萬圓ノ交付ヲ受ケタト、或ハ非難ヲ受
ケルモ致方ハナカ、滿鐵ノ資金ガ窮乏シテ居ルコトヲ中西副
社長ハ言フデ居ルノデアル、序ニ私ハ安ニ讀ムダマス、中西副
社長曰ク、塔連炭礦ノ方ヨリモ寧ろ汽船買収ノ方ガ遙ニオ
カシイ一旦契約濟ノ分ヲ解除セシメタル上更ニソレヨリ高
價ナルモノヲ買ハシメ總選舉前ニ現金ヲ交付シタルモノナ
レハナリ」是ハ中西副社長ノ直談デアリマス、(政友會顔色
ナシ)誰ガ顔色ガナインカト呼フ者アリ)ソレ故ニ其當時滿
鐵會社ノ内部ニモ、諸君ガ御承知デゴザイマセウ、猛烈ナル
反對ガ起リテ、一部ノ重役ハ現ニ此賣買ニ對シテ、調印ヲ拒
絶シテ居ルデハナカ、一部ノ重役憤慨シテ、自分ノ職ヲ辭
シテ居ルト云フ事實モアルデハナカ、(拍手起ル)滿鐵ノ内
部ハ不統一不整理ノ極メテ居ル、只ダ此不統一ノ爲メニ就
イテスラ、滿鐵會社内部ニ驚カベキ醜態ヲ演出スルニ至

ノデアル、只ダ當局者ハ只管糊塗彌縫ヲ努メ、今日ニ至ル
マデ只ダ臭イ物ニ蓋ヲシテ居ルト云フ狀態ニ止マルノデアリ
マス

〔「頭上ノ蠅ヲ追ヘ」泥溝カラ出シタモノガ五萬圓デ
ヤナイカト呼フ者アリ議場騷然〕

○議長(與繁三郎君) 田淵君ニ注意シマス

○早速整頓君(續) 洵ニ驚クベキ事實ノ暴露ナリト斷言
シナケレバナラヌ、併ハ私ノ述べタ所ハ、滿鐵會社ニ起リシ
幾多ノ事實ノ中、只タ一ノ片鱗ニ過ギナイカモ知レナイシ
デアル、之ヲ推論シテ見マスレバ此機關ヲ——此機關ノ當局
者ガ、或政黨ノ利益ヲ圖ル爲メニ一種ノ利用ヲセラレタ、或
諸托ガ行レタト推論スルコトモ出來ナイコトモアリマセヌ、洵
ニ醜陋モ亦甚シイト申サナケレバナラヌ、實ニ放縱極マル遺
方デアル、傍若無人ノ遺方デアル(拍手起ル)汚濁腐敗、言
語ニ絶セリト私ハ申スノデアル、(拍手起ル)是ガ(證據ヲ出
シ給ヘト呼フ者アリ)社會ノ風教道德ニ影響ナシト云フコ
トガ出來レデアルマセウカ(拍手起ル)若シ之ヲ自然ニ放任
セバ、私ハ我國家ノ前途洵ニ寒心スベキモノアリト斷ゼザル
ヲ得ナイノデアル、(拍手起ル)證據呼バリヲシテ此問題ヲ採
演スト云フヤウナコトハ、(證據ガナクテドウスル)ト呼フ者
アリ)ソレハ國家ヲ念ハザル甚シキモノデアル、政治上ノ腐敗
ヲ容認セントスルモノニ當ル、政治上ノ問題ハ必ズシモ證據
呼ハリヲ以テ採演スコトハ出來ナイノデアリマス、(拍手起
ル)私ハ政治道德ノ精神ニ照シテモ、内閣諸公ニ處決ヲ促
スト云フコトニナルノハ、決シテ偶然デナリト斷言スルモノデ
アリマス、況ヤ斯ノ如キ歴然タル證據アルニ於テヤ、(拍手
起ル)原總理大臣ハ貴族院ノ議場ニ於テ、白々シクモ此事
實ヲ知ラナイト斷言シテ居ラル、ノデアリマスガ、總理大臣
若シ良心アラバ——總理大臣若シ良心アラバ、私ハ無論猛
省セラレベキ所アルヲ疑ハヌノデアリマス、斷ジテ責任ヲ避ケ
ルコトハ出來ナイノデゴザイマスルカラ、私ハ……

〔此時發言スル者多ク議場騷然〕

○議長(與繁三郎君) 靜肅ニ……

○早速整頓君(續) 私ハ速カニ——速ニ其責任ニ任ゼラレン
コトヲ勸告ヲ致シテ此段ヲ降リマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 鶴澤總明君

〔鶴澤總明君登壇、拍手起ル〕

○鶴澤總明君 諸君、只今憲政會ノ早速君カラ、滿鐵問
題ニ對シテ現内閣ノ責ヲ問ハレタル演說ガアタノデアリマ
ス、併ナガラ其演說ノ大體ハ、主トシテ此山田某ト云フ者ノ
辭職ノ理由ニ現ハレテ居ル事柄ノミニ限リ居タヤウニ見
エルノデアリマス

〔「マダ外ニモ有リマス」外ニハ無イヨ」ノウ——「默

レ「ソレハ想像ダ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 静ニ...

○議長(奥繁三郎君) 而シテ掲ゲラレタル問題ハ塔連炭礦ノ問題、滿洲丸ノ問題、電化工場ノ問題、此三ノ事ニ就

キマシテ、滿鐵會社ニ於ケル事務ノ取扱振リガ不當デアッタナル、是ダケノ攻撃ニ過ギナイノデアル、(「ノウウ」)

ハ既ニ山田某ノ日記ニ於テモ、新聞ニ於テモ、明白ニセラレテ居ル所デゴザイマシテ、此點ニ就テ私ハ爰ニ事實ニ涉ッテ、

論評スル必要ハ認メナイノデアル、(拍手起ル)「出来ナイイダラウ」ト呼フ者アリ、吾ミガ議員トシテ斯ノ如キ問題ノ起リマ

シタ場合ニ、如何ナル判斷ヲ下サナクハバナラヌコト云フコトハ、是ハ吾ミガ此争ノ當局者ニ入ッテ、甲ヲ是ナリトシ、乙

ヲ非ナリトシテ判斷スルノデハナイノデアル、吾ミハ公平ニシテ、(「何ガ公平ダ」ト呼フ者アリ)而モ嚴正ナル裁判官ノ地位

ニ立ッテ、果シテ甲ガ正當デアルカ(拍手起ル)或ハ乙ガ正當デアルカヲ判斷スベキデアリマス、ソコデ先ヅ若シ滿洲ノ此鐵

道ノ會社ニ於テ、訴ヘラル、ガ如キ不正ガアルナラバ德斯、而モ此事ハ既ニ地方裁判所ニモ訴ヘラレテ居ルヤウデアルガ、

若シ斯ノ如キ不正ガアルナラバ、是ハ糾彈スルニ於テ一向差支ナイノデアル、併ナガラ若シ之ヲ糾彈スルト云フ場合ナラバ...

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

○議長(奥繁三郎君) 一寸御待チナサイ 田淵君ニ退場ヲ命ジマス

ノ論ゼラレタル事柄ガ、果シテ事實デアルヤ否ヤト云フ事ニ對スル...

○議長(奥繁三郎君) 諸君、宣言シマス、田淵君ノ發言ヲ制止シマシタ、(「ソナコトハ無イ」)

「ト呼フ者アリ」諸君、諸君ニ聞ヘナカッタカモ知レマセヌガ、田淵君ハ議長ニ對シテ、議長ノ制止ニハ應ジナイト答

ヘマシタカラ退場ヲ命ジマシタ、(拍手起ル)是ハ諸君ニ聞ヘナカッタカモ知レマセヌガ、田淵君ハ議長ニ對シテサウ答ヘマ

シタ、ソレカラ中野君ハ議長ノ許可ナクシテ演壇ニ登リマシタカラ、下ルヤウニ命ジマシタ、中野君ハ議長ニ對シテ演壇ヲ

下ラナイト言フタカラ、懲罰ニ付シマスト言フタ(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

○議長(奥繁三郎君) 許シマセヌ

レタモノデアルトハ御覽ニナラヌコトデアラウト思フ(拍手起ル)即チ山田潤二ト云フ人ノ言フ所ニ依ッテハ、(議長々々)

ト呼フ者アリ)是ハ多年ノ間滿鐵ニ關係シ滿鐵ヲ憂フルノ餘リ、自分ノ考ヘテ居ル所ヲ、之ヲ或ル客觀ニ訴ヘントスル

一ノ意見書ニ過ギナイノデアル、昔カラ正義ノ人ナリ、我ハ憂國ノ人ナリト稱ヘテ、斯様ニ長イ辭表ヲ書イテ、他人ヲ彈

劾シテ居ルモノヲ見タコトハ、無イノデアリマス、(「ヒヤ」)

拍手起ル)然ルニ此辭職理由ト云フモノハ、取モ直サズ他人ノ彈劾意見デアル、或ル方面カラ見タナラバ、一ノ鑑定報告

ト看テモ差支ナイモノデアリマス、假リニサウ云フヤウナモノニ看ナイト致シマシテモ、山田氏ガ眞ニ滿鐵ノ問題ヲ憂ヒ、

眞ニ我國ノ政治ノ事ヲ憂ヘテ書イタモノデアルト致シマシテモ、而モ若シ其人ガ斯ノ如キ事實ヲ調べ、斯ノ如キ事ヲ書ク

トキニ當リマシテ、徒ラニ感情ニ激シ、(「ノウウ」)徒ラニ不

滿ノ念ヲ昂メ、徒ラニ他ノ者ト争ヒ、徒ラニ自己ノ立場ヲ擁護セント欲スルヤウナ斯様ナ感情ガ、微塵タリトモ此意見書

作成ノ中ニ入ッテ居ルト云フコトガアツタナラバ德斯、此文書ノ値打ト云フモノハ極メテ微弱ナルコトニ相成ルノデアリマ

ス、(拍手起ル)ソコデ此理由書ト云フモノガ値打ノ有ルモノデアルカ、之ニ掲ゲラレタル所ノ事實ガ正當ナモノデアルカ

ト云フコトハ、幸ニ冷静ナル司法裁判所ノ在ルアリ、此裁判ノ判斷ニ待ッテ何故ニ晚イコトデアリマセウ(拍手起ル)吾ミ

ハ徒ラニ政治道德ノ名ニ藉リマシテ、人ヲ誹謗スルコトノミヲ以テ正シイモノトハ考ヘテ居ラヌノデアリマス、(拍手)ソコ

デ先ヅ此滿鐵ノ問題ニ就テハ、技術上ノ調査ニ關シテモ、專門ノ知識ガナケレバ判ラヌコトハ、是ハ此所デ諸君ガ如

何ニ議論ヲ爲スツ所デ、到底解決ノ著クヘキモノデアリナイノデアリマス、故ニ此點ニ對シテハ、吾ミハ政府ヲシテ十分

ニ調査ヲ盡サシム、其答ムヘキハ之ヲ答ム、糺スヘキモノハ之ヲ糺シ、而シテ法律ニ依ル國ノ目的ヨリ、大處高處カラ判斷シテ宜イモノト信ズルノデアル、故ニ此點ニ對ス

ル早速君ノ辯論ハ、千言萬語ハ殆ド此所謂辭職理由ヲ根據ニ置イテ論ゼラレテ居リマス、(「レドモ

未ダ之ヲ以テ政府ノ責任ヲ問フベキ理由トハ認メナイノデアリマス、(拍手)吾ミハ早速君ニ聽カント欲スル所ハ、此滿鐵ノ問題ト更ニ續イテ居ル政府ノ監督ノ問題ノ點デアル、

早速君ハ其演說ノ終リニ當リマシテ、僅ニ政府ニ責任アリト云フヤウナ議論ヲ致シマシタレドモ、此滿鐵ト云フ一ノ株式會社、此會社ハ早速君ノ申サレマス通り、我が帝國ノ

見地カラ極メテ重大ナル會社デアリ、又滿蒙開發ノ上カラ見テモ、我國ノ大陸發展ノ上カラ見テモ、實ニ重大ナル會社

デアルト云フコトハ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社トシテ見テモ、是ハ吾ミハ毫モ異論ノ無イ所デアリマス、(レドモ)斯ノ如キ會社ナルガ故ニ、之ヲ一ノ小キ商事會

社——營利ニ汲々タル商事會社ノ經營ト同一ナル筆法ヲ以テ、此經營方針ヲ論ズルコトハ出來ナイノデアル、而シテ政府ガ多數ノ株ヲ持テ、政府ガ大ナル資本ヲ投ジテ相當ニ管理ノ途ヲ設ケテ居ル所モ、亦恐ラクハ此點ニ在ルノデアリマス、此意味カラ申シマスレバ政府ハ、ソレノ相當ノ機關ヲ監督ノ途ヲ取リ、一面ニ於テハ株主ナリ、或ハ幹事ナリ、管理官ナリ、是等ノ者ニ對シテ、内部ノ調査ヲ盡サシメ、遂テ今執テ居ルノデアリマス、斯様ニ點カラ、若シ事實諸君ノ訴ヘタル、如キコトデアッタラバ、之ニ對シテ十分ニ糾弾ヲ加ヘレバ宜イノデアル、併ナガラ吾々ハ此ニ訴ヘラレタルモノトシテ、斯様ニ爭ノ多キ事實ヲ取リ、疑ノ多キ事實ヲ取テ、是ハ正確ナル事實デアアル、是ハ正確ナル言分デアアル、故ニ之ヲ信ジテ、他ノ議員諸君モ吾々ニ跟イテ來レトシマシトハ、是ハ出ノ好イ話デアルト考ヘマス、先ヅ吾々ト致シマシテハ爭ノ無イ立場ニ立テ、然レ後ニ此事實ヲ判斷シナケレバナラヌノデアリマス、先ヅ塔連炭礦讓受ノ事ニ致シマシテモ、正真正正ノ爭ノナキ事柄ト云フモノハ、極メテ簡單ナル點デアル、即チ大正九年ノ五月ノ四日ニ、此塔連炭礦ノ讓渡ト云フ假契物ガ締結セラレタ、此假契約ニ於テ現ハレテ居ル所ハ、其第三條ニ依テモ、第四條ニ依テモ、或ハ其後ノ點ニ於テモ、會社ノ重役ノ契約スル所ハ、會社ヲシテ失ハシムル所ノミ早速君ノ言ハル、通ニナテ居ルカト云ヘバ、サウデハナイ、之ニ對シテハ相當ニ救済ノ途ヲ立テ、契約ガ出來テ居ルノデアリマス、此點ハ爭ノ無イ點デアアル、此爭ノ無イ點ヲ諸君ハマルデ場外ニ置イテ、徒ラニ内部ノ不平ノ人カラ出デ來リマシタ、所謂内部ノ喧嘩ヲ以テ公ノ政治問題トスルガ如キ事柄ハ、諸君ニ取テハ大人氣ナイ話ト申上ル外ハ無イノデアリマス、(拍手)ソコデ第一ノ塔連炭礦ノ點ニ付テ問題、之ニ就キマシテモ二百二十萬圓ト云フ代價ニナテ居リ、又山田氏ノ言フ所ニ依レバ、是ハ假契約デアレケレドモ、本契約締結ト云フ事柄ハ、是ハ代金ノ支拂ニ掛テ居ルカラ、解約ガ出來ルカドウカト云フコトニ就テハ、解約ガ出來ナイト云フコトハ、中西副社長モ承知デアルト云フコトガ書イテアル、是ハ或ハサウデアラウト思ヒマス、思ヒマスコレドモ、併ナガラ契約ニ現ハレテ居ル所ノ所謂第二條ノ事柄ニ就テ若シ不當ノ事ガアリ、此事柄ノ實行ガ出來ナイト云フ場合ニハ、是ハ解約モ出來ル、又相當ノ補償ヲ得ル途モ立テ居ルノデアリマス、斯様ニ次第デゴザイマスカラ、吾々ガ爭ノ無イ點カラ判斷スルヤウナラバ未ダ諸君ノ訴ヘテ居ル所ノ事實ヲ直チニ眞實ナリトシテ受取ルコトハ出來ナイノデアル、ソレカラ權利ガ確實デアルトカ、權利ガ確實デアリトカ、或ハ委任ノ形式ニ依テ事實上ノ經營ヲスルコトガ善イトカ、惡イトカ云フコトハ、是ハ法律上ノ進化ノ程度ニ依テ、國々ニ依テ異ナル、點ガアル、權利ノ確實ト云フモノハ、必ズシモ法律ノ上ニ於テ確實ナルガ故ニ、是デ確實ダト云フモノハナイノデアル、實際ニ於ケル慣例ニ依リ、實際ニ於ケル國際間ノ取扱振リニ於テ、確實ニ經營ガ出來ルナラバ、即チ權利以上ノ確實ガアルコトニナル

ノデアリマス、(拍手)ソレ故ニ是等ノ點ニ就テモ、吾々ハ只ダ片言ノミヲ聽イテ、之ヲ以テ一切ヲ攻撃スルコトハ出來ナイノデアリマス、(ノウ)大連汽船株式會社ノ買ヒマシタ滿洲丸ノ問題モ亦同一デアアル、此點ニ就テ早速君ハ六千三百二十五噸ノ船ノ契約ハ、是ハ宜シイト云フヤウニ論ゼラレタヤウデアアル、吾々ハ果シテ此六千噸級ノ船ヲ買フ所ノ契約ガ、宜シイモノデアルカ宜シイモノデアルカ、又之ヲ八千噸級ニ買ヒマシタ事柄ガ、是ガ宜シイ事デアルカ宜シイ事デアルカ、是等ハ一ハ滿洲鐵道ノ幹部ニ於ケル經營者ノ方針ト意見ニ重キヲ置イテ、決定セヌケレバナラヌト思フノデアリマス、今日現ハレテ居ル所ノ問題ヲ見ルト、謂ハハ滿鐵内部ニ於ケル事柄ハ、舊來ノ役員ト新來ノ役員トノ間ニ非常ナル競争或ハ爭ハガアルヤウニ思ハレルノデアル、其結果ト云フモノハ、色々意見ノ衝突トナテ現ハレテ來テ居ルノデアリマス、(拍手)直チニ非ナリト見ルコトハ、出來ナイノデアリマス、(拍手)起ル、或ハ從來ノ經營ノ方針、其經營ノ方針ハ御役所風デアリ、或ハ官僚風デアリ、其經營ノ方針、從來ハ一ツノ事ヲ決メルノニ認印ノ五ツモ十ツモ押サナレバ、解決ノ若キヤウナ事務取扱振リヲヤウニ居ラヌカ知レナイ、而モ其カスヤウナ事務取扱振リヲヤウニ大局面ニ影響ガ無クシテ、所謂役所風デアリタカモ知レナイ、此際ニ當テ之ト意見ヲ異ニシタル人ガ參リマシテ、之ト別ナル商行為ノ方式ヲ取ルカラト申シマシテ、吾々ハ是ガ直チニ不正デアリ、是ガ直チニ不當デアルト論ズルコトハ出來ナイノデアル、(ヒヤヒヤ)拍手起ル、元來商事會社ニ於ケルマシマシテ、其經營者ニ對シテ取締、多大ノ自由ヲ與ヘナレバナラヌノデアル、若シモ此取締役或ハ重役ヲシテ、徒ニ下級ノ人ノ認印ト調査ニ拘束セラレナレバナラヌト云フヤウナ事ニ致シマシタナラバ、ソレコン此大目的ヲ持テ居ル所ノ、會社ノ經營ノ出來ルモノデハナイノデアリマス、(拍手)起ル

〔論理極メテ明白ニ二木武吉君〕

○議長(與繁三郎君) 靜ニ……

○鶴澤總明君(續) 而シテ吾々ハ船ノ事ニ就テハ不案内デアル、ソレノ價值ノ高イカ廉イカト云フコトモ不案内デアル、而シテ此滿洲丸ノ問題ガ、是ガ其時價ニ於テ多少高イコトガアッタト云フコトデアリ、此高イコト云フ事柄ガ是ガ不正デアルト云フコトナラバ、是ハ其技術上専門上ノ判斷ニ訴ヘテ、事ノ解決ヲセラルベキモノデアリマス、(其ノ通り)ト呼フ者アリ、今日此所ニ於テ自個ノ見地カラ直チニ重役ヲ攻メ、直チニ會社ヲ攻ムルト云フ事柄ハ、之ヲ以テ政治上ノ道德上糾問ノ唯一ノ法ナリトスルコトハ出來ナイノデアリマス、(拍手)起ル、其故ニ早速君ノ此意見ハ私ハ一ツノ意見トハ拜聴致シマシタケレドモ、是ガ此問題ヲ解決スベキ意見ノ全部デアルト云フコトハ、承認ガ出來ナイノデアリマス、(拍手)起ル、第三ノ電化工場ノ買収問題モ亦同一ノ事柄デアアル、是ハ既ニ第一第二ニ於テ論ジタル所ト、略、同一デゴザリマスルカラ、之ニ對スル所ノ意見ヲ繰返ス必要ハ無イト

思フノデアルソコデ本員ノ考フル所ニ依リマスレバ、本件ノ重役等ノ行為ヲ判定スベキ基本事項ト致シマシテ、少クモ此四ツノ事ヲ批判シナケレバナラヌノデアリマス、其第一ハ所謂滿鐵經營ノ方針トシテ、現重役ハ如何ナル意見ヲ持テ、如何ナル方針ニ依テ、此經營ヲスルコトニ決メタノデアルカト云フ一點ガ必要デアル、第二ハ此方針ガ生ズル所ノ商機商略ト云フ事ガ必要デアル、諸君ノ御議論、即チ山田君杯ノ御議論、殊ニ此早速君ノ御議論ヲ承リマス、是等ノ點ニ對シテ商事會社デアリ、商機商略ノ關係モ、實際ノ商事會社シテハ眼中ニ置カケレバナラヌト云フヤウナ點ハ少シモ言ハレテナイ、恰モ政府ノ單ニ行政監督ノ點ノミヲ見ルガ如キ議論デゴザイマス、是ダケデハ、此株式會社ト云フヤウナ問題ヲ決スルコトハ出來ナイノデアリマス、ソレカラ第三ニハ買収タル所ノ物ノ價格ガ、妥當デアルカナイカ買収リタル物ハ、今日買収リタル代價以上ノ値打ガアル物デアルカナイカト云フ點ハ、是ハ專門技術ノ判斷ヲ待タナクニ解決ノ出來ナイ點デアアル、ソレカラ第四ハ、重役ノ此取引ニ至タル所ノ目的觀念ハトウデアラカ、之ヲ決メナケレバナラヌノデアリマス、然レ此點ニ對シテ唯一ノ之ヲ論ズベキ所ノ證據ト云フ物ハ、所謂會社ノ現在ノ重役ニ不平デアリ、不満足デアリ、之ニ憤激ヲシテ而シテ、意見ヲ書イタ者ノ證據ノ外ニハ何モ無イ、之ニ依テ今日ノ重役ノ取引ニ至リマシタ所ノ目的觀念ト云フモノヲ決スルコトハ、到底出來ナイ次第デアリマス、(拍手)起ル、而シテ此滿鐵ニ關シマスル政府ノ監督關係ト致シマシテハ、私ガ爰ニ諸君ニ申上ゲルマデモナク、三十九年ノ勅令第四百二十二號、同年八月ノ命令書、之ニ依テ此監督關係ガ、法令ノ手續ヲ經テ之ヲ爲スベク規定セラレテ居ルノデゴザイマス、カラ政府ガ之ニ基ツテ監督ヲ致シ居ルマシムル以上ハ、此監督ノ任ヲ爲タモノデアルト云フコトハ、直チニ論斷スルコトハ出來ナイノデアル、(ヒヤ)拍手起ル、即チ今日ノ問題トナテ居ルコトハ、今日以後ニ解決セラレベキ問題デアッテ、今日以後ノ解決ニ於テ政府ガ相當ノ處置ヲ執レバ、是ニテ問題ハ解決スルノデアリマス、(ヒヤ)拍手起ル、乃チ私ハ此意味ヲ以テ、此決議案ニハ反對スル次第デアリマス、(拍手)起ル

○三木武吉君 議長

○議長(與繁三郎君) 議事ノ進行ニ就テ三木武吉君ヨリ發言ヲ求メラレマシタ、許シマス

○三木武吉君 議長、(無用々々ト呼フ者アリ、議場騒然)

○議長(與繁三郎君) 諸君、靜ニ——諸君……

○三木武吉君 諸君ガ靜マレバヤリマス

○議長(與繁三郎君) 諸君、靜ニナサイ

○三木武吉君(續) 私ハ議事ノ進行ニ就キマシテ、一言致シタイ事ハ……

○三木武吉君(續) 何時迄デモ演說セヌ

十一

事柄ノアツタ當時ニ於テハ、大正六年マデノ決算ガ終ッテ居
任ノ件)

タト云フ時期デアリマシテ、本件ノ如キハ、今ニ會計検査院ノ認可ヲ經ナイコトニテ居ル、私ハ他日會社ガ會計検査院ニ認可ヲ申請シタ時ニ於テハ、決算上意外ノ問題ガ發生スルコトヲ爰ニ豫期スル一人デアリマス。(拍手起ル)會社ノ關係ハ政府トノ關係ニ於テ斯様ナ事ニテ居ルデアリマスカラシテ、或人ノ如ク會社ノ内容ニ不當不正ノ商取引ガ行ハレタルニ就テ、政府ニ何等ノ責任上ノ問題ガ無イト申ス如キハ、思ハザルノ甚シキモノト謂ハナクバ、ナラス。(拍手起ル)故ニ政治上ノ判斷ヲ之ニ加フルナラバ、會社ノ内容ニ不當不正ナ事ガアレバ、政府ガ其監督ノ責任ヲ云フ消極的ノ責任ト云フモノガ、第一ニ爰ニ生ズルデアル。(拍手起ル)更ニ其不當不正ノ取引ニ就テ、情實詳實ヲ助長シタル所ノ關係ガアルナラバ、爰ニ進シテ第二ニ積極的ノ責任ヲ生ズルデアル。(拍手起ル)吾ハ此消極積極ノ二様ノ責任論ヨリシテ、本件政府ノ責任ヲ致シテ見タイト存ズルデアリマス、此責任ヲ論斷シマスニ就テハ、本件ノ内容ニ含マル、所ノ第一ハ、塔連炭礦ノ買収、第二ハ、滿洲九ノ買収、第三ハ、電化工業ノ買収、此三ツノモノニ就キマシテ、買収ノ必要ノ有無、價格ノ當否、是等ノ買収ハ、滿鐵社規ノ定ムル所ニ依テ公正ニ行ハレタルヤ否、第四ニハ、此買収ガ政治的ニ監督官憲トノ關係如何、斯ウ云フ四ツノ問題ニ岐ルルデアラウト思ヒマス、問題ガ三箇アリマシテ、各事情ヲ異ニ致シテ居リマスガ、成ベテ演說ノ短カシテ、欲スル爲メニ、其要ヲ摘ニシテ、此三箇ノ取引ニ就テ、四箇ノ標準ニ就テ、爰ニ事實上ノ意見ヲ少シク述ベテ見タイト思フデアリマス、塔連炭礦ノ分ニ就テハ、買収ノ必要ノ有無ハ早速君ガ二三之ヲ述ベラレタデアリマス、即チ買収ノ必要無シト云フコトニ就テ、述ベラレタデアリマス、言葉ヲ換フルナラバ、會社側ノ説明ニ依ルト、會社ハ撫順煙臺等ノ澤山ナル炭山ヲ有テ居ルデアリマスカラシテ、更メテ此塔連炭礦ヲ買収スルノ必要ガ無イト云フコトニ對シテ、種々ナル會社側ノ辯明ガアルデアリマス、而シテ其要旨ハ、鞍山製鐵所ノ製鐵用ニ必要ナル所ノ「コークス」ノ製造用トシテ、塔連炭礦ヲ買収スル必要アリト云フ議論デアリマス、レドモ、此點ニ就テハ早速君ガ凡ソ辯ゼラレタ、ガ是ハ山田潤二君ノ手記ヲ基礎トシテ述ベラレタガ爲メニ、政友會ノ一面ヨリ致シテ、此根本ノ書類ガ信用セラルザル以上ハ、價ノ無イ議論デアルト、云フ御攻撃ガ出テアル、果シテ然ラバ私ハ此書類以外ニ、此買収ノ必要ノ無キ事ヲ證據立テマス、何デ證據立テタルコト云ヘバ、大正八年即チ本件買収ノ行ハレタル、二箇月以前ノ會社ノ事業報告書ニ依ルト云フト、該炭「コークス」ヲ造ル爲メニ、新タニ塔連炭礦ヲ買ハナイデモ、南滿鐵道ニ於テハ、骸炭ハ剩リテ居ルデアル、「コークス」ハ剩リテ居ルデアル、是ハ無責任ニハ申上ゲアル、此事業報告書ヲ御覽ニナルト能ク判リマスガ、大正八年度即チ賣買ノ二箇月以前ノ締切報告ニ依ルト、大正八年度ニ於キマシテ、南滿會社ガ骸炭ヲ製出シタル所ノ噸數ハ七万千噸デアリマス、七万千噸造テ幾ラ使用ヲ致シタコト云フト、鞍山

製鐵所其他ニ於テ四万五千噸使テ居ルデアリマス、即チ從來ノ撫順其他龍鳳炭礦等ノ原料ヲ使用シテ、一箇年七万一千噸ノ「コークス」ヲ造テモ、使フ所ハ其六割デアル、四万五千噸ニ過ギナイ、四割ハ剩リテ居ルデアル、大正八年ニ於テハ四割剩リテ居ルデアル、果シテ然ラバ當面ノ急ニシテ、此塔連炭礦ヲ骸炭製造用ノ爲メニ買フ必要ガ何所アリマスカ、(ヒヤ)「拍手」私ハ基礎ノ無イ空論ハ致シマセス、會社ノ事業報告ニ依テ必要ナキコト、數字の二證明スル勇氣ヲフルテ居ル一人デアリマス、(ヒヤ)「拍手」以上ノ事實ニ加フルニ、早速君ガ御述ニナリマシタ數箇ノ會社内情ニ依リマスレバ、何モ買収ノ必要ナキコトハ明カデアリマス、而シテ此事ノ當否ニ就テ、價格ノ當否ヲ論ジナケレバナラナイデアリマス、此點ハ早速君モ大體御述ニナリマシタカラ、只タ非常ニ不當ナル價格デアルト云フ一語ヲ以テ終リタイデアリマス、ケレドモ演說ノ責任トシテ、簡單ニ一語ヲ加ヘテ置キマスレバ、價格ノ不當ナルコトハ大正八年十一月中ニ、朝鮮銀行ヨリ此會社ガ二十萬圓ノ追加借入ヲセラレタル時ニ方、南滿鐵道ニ保證ヲ依頼セラレタコトガアリマス、其當時ニ於キマシテ會社ハ如何ヤウニセラレタコト云ヘバ、撫順炭礦ノ各技師、滿鐵地質調査所長、責任アル所ノ會社主任ノ鑑定ヲ命ジマシタ所ガ六十五萬圓内外以上ノ實價アリザルガ故ニ、第二回ノ二十萬圓ノ保證ニ應ズルコトハ、危險ナリト理由ヨリ、之ヲ拒絕シタル事實ガアリマス、果シテ然ラバ其炭礦ノ價格ハ、大體ニ於キマシテ六七十萬圓内外デアルト云フコトハ、公平ナル鑑定デアリマシテ、(拍手)斯ル物件ヲ四倍近キ所ノ二百二十萬圓ニ買収スルニ至ラバ、事ノ當否ハ多言ヲ要セズシテ、明カデアラウト思フデアリマス、(拍手)更ニ進シテ此買収ガ會社内ノ社規慣例ニ照シテ、正當公平ナル手續ヲ盡サレタルヤ否ヤヲ調査致シマスレバ、滿鐵會社ノ慣例ト致シマシテハ、斯ル買収ガ爲メ場合ニ於テハ、通常執ルベキ所ノ五ツノ手續ガアルデアリマス、第一ハ買収理由書ヲ作ルデアリマス、第二ハ物件ノ評價書ヲ作ルデアリマス、第三ハ買収當事者間ニ於ケル、交渉願末書ト云フモノヲ作ルデアリマス、第四ハ契約書案ヲ作ルデアリマス、第五ハ之ニ基ツイテ、重役高級社員間ニ於ケル、回議決議書ヲ作ルデアリマス、是ハ即チ會社ノ内規デアリ、又慣例デアルデアリマス、然ルニ本件二百萬圓以上ノ重大ナル買収ニ就テ、即チ塔連炭礦ノ買収ニ就テ、今日ト雖モ南滿會社ニ於テハ、此常例デアル所ノ四ツノ書類ハ無イデアリマス、今日デモ無イデアリマス、只ダ有ルモノハ第五項ノ回議決議書ト契約本證書ト云フモノガ、大正九年五月四日附ノ同日附出來テ居ルデアル、常識ヲ以テ見レバ、此回議書案ト云フモノハ、早速君ノ言ハレタ通り、後日ノ作成ニ係ルモノトモ疑ハナケレバナラヌ道理ガ付ノデアリマス、(拍手)何故カラバ、二百萬圓ノ重大ナル買収スルノニ、五月四日ニ重役高級社員ガ回議ヲシテ、即時ニ決定スルト云フ道理ガアルベキモノデアハナイ、(ヒヤ)「拍手」現ニ此點ニ就テハ其後不滿ノ爲メ

ニ——其後責任ヲ避クルガ爲メニ辭職セラレタル現波蘭公使川上俊彦君ハ世間ニ公言ヲ致シテ居ル、彼ノ決裁書ニハ自分ノ名ガ書イタルケレドモ、アレハ後日求メラレテ書イタモノデアル、當時ニ於テハ、自分ハ此回議ニハ關與シナイヒ信ジテ居ラレバ、堂々タル帝國ノ全權公使、此人ノ言ハ勢ヒ信ジナケレバ、言ハスト思フデアリマス、(此回議書ト云フモノハ、即チ後日ノ作成ニ係ルモノカラ、然ラザルモ當時満足ニ重役間ニ合議セラレテ決定セラレタル所ハ、決議書デアリナイト云フコトヲ私ハ斷言スルデアリマス、(拍手)當ニシレノミデアリマセヌノ、此買収ニ就テハ、會社内部ノ關係、高級責任者タル所ノ撫順炭礦ノ次長、同炭礦ノ技師、會社ノ興業部長ノ興業課長、其他ノ者孰レモ、賣買取引後ノ六月二十八日ニ至ル迄、此事柄ノ存在ヲ知ラナカッタ云フ一事ハ、實ニ驚クベキ不思議ナ事デアラウト存スルデアリマス、(拍手)斯様ナ譯デアリマシテ、當否ノ上ヨリ論ズルモ、價格ノ上ヨリ論ズルモ、此塔連炭礦ノ買収ハ甚ダ不當ナルモノデアリマス、所デハ、ミデア、會社ノ内部ニ不當不正ノ取引ガ行ハレタト云フ程度ニ止マルデアリマス、政府ノ監督責任ト云フ問題ハ未ダ起ラナイデアリマス、之ヲ論究シテ見ナケレバナラナイ思フデアリマス、之ニ論スルニハ、不當不正ノ事情ガ性質トシテ暗黙秘密ノ間ニ行ハレルト云フ關係ニ於キマシテ、左様ニ明カナル所ノ書證ト、有形ノ證據ガ此ニアリ得ベキ筈ハナイデアリマス、故ニ斯ル方面ノ事情ニ就テハ、其事柄ヲ直接間接ノ接觸ヲ致シ、其取引者ニ直接間接ノ接觸ヲ致シタコト云フ此人ノ證言ニ俟ツノ外、私ハ致方ナイモノデアラウト考ヘタル所ノ滿鐵前興業課長ノ山田潤二君ノ告白書ナルモノヲ、勢ヒ引用ヲシナケレバナラナイコトニナルデアリマスガ、此點ニ就テ鶴澤君ハ先刻山田前興業課長ノ告白書手記ナルモノハ、滿鐵重役ニ不滿ガ引退セラレタル所ノ山田君ノ手記デアルカラ、感情立場ノ上ニ於テ、左様ナル信用ヲ拂フベキモノデアリナイト云フコトヲ御論駁ニナリマシタガ、是ハ左様ナ單純ナ議論ニ參リマセズ、ヲ成程世間ニハソレニ似寄ノ事ガアルカモ知ラセヌケレドモ、山田君ガ何故ニ不滿ガ滿鐵ヲ退イタルカモ知ラセヌケレドモ、爲シテ之ヲ忠告致シテ止ムイカ、不滿デアルト云フウテ退イタルデアル、(拍手)他ニ感情利害ノ問題ニ不滿ガアテ退イタル、人ノ惡事ヲ摘發シタデアリナイデアリマス、爰ニ是等ノ立場ヲ斟酌シナイデ、單ニ重役ニ不滿ヲ懷イテ居ルカラ、許イテ以テ直ト爲スモノデアルト一概ニ論ズルコトハ、私ハ出來ナイデアラウト思フ、所デ山田ト云フ人ハ明治四十四年ニ帝大ヲ出ラレタ、殊ニ優秀ノ成績ヲ出ラレタ、爾後十年間滿鐵ニ於テ何等ノ非難ナク、高級社員トシテ今日マデ經過セラレタ所ノ歴史ヲ有テ居ラレバ、殊ニ此人ノ親友デアリマス所ノ帝國大學ノ工學博士デアラレバ、渡邊某ノ世間ニ發表セラレタ所ニ依レバ、親友山田ノ性格ハ恬淡高潔不正ヲ憎ムコト仇敵ノ如キノ性質ヲ持テ居ラレト斯様ニ證明セラ

レテ居ル、斯ノ如キ性格ノ人、此歴史、此人格、之ヲ信用シ
ナイト言、タナバ、世間ニ如何ナル人ヲ信用スルノデアルカ、
(拍手)吾等モ信用スベキノ、デナイ、現ニ此人ノ告發ニ
基シテ、東京地方裁判所ノ檢事局ガ此人ノ手記ヲ信アル
モノトシテ、調査ヲ進メテ居ルデハ以上カ、(拍手)神聖ナル裁
判所ニ於テ値アルモノト致シテ居ル以上ハ、帝國議會内部
ノ評論ニ對シテ、私ガ之ヲ一ツノ證據ト引用致スモ、敢テ輕
卒ノ罪ヲ受クルモノデナイト信スルノデアリマス、(拍手)此人
ノ告白スル所ニ依リマスルト、色々ノ事ガ書イテアリマス、大
體ハ早速君ガ御引用ニナリマシタカラ、重ネテ之ヲ引用スル
コトヲ致シマセスガ、此人ノ告白書ニ依レバ、撫順炭礦庶務
部長小日山直登氏、並ニ撫順炭礦長井上匡四郎氏、其他
信用アル人ミト野村社長、中西島社長是等ノ人ノ交渉應
對ノ間ニ於テ、天降リ案デアルト云フ言葉是非ナイト云フ
コト、或ル目的ノ爲メニ買収セラレルノデアルカラ致方ガナ
イト云フ言葉、小日山氏ガ之ニ抗議シタル場合ニ於テ、矢
張高等政策ノ爲メニ云フコト、是等ノ言葉ヲ綜合シ
來リマシタカラ、天降リ案ノ意味ト云フモノモ、高等政策
ト云フ意味モ、之ヲ了解スルニ難カラザル次第デアルト私
思フノデアルマス、(拍手)斯ル曲事アル場合ニ於テ、山田氏
ガ一身ヲ犠牲ニ供シテ、滿鐵ノ擁護、正義維持ノ爲メニ奮
起セラレタルコトハ、洵ニ同情ニ値スルモノ、出來事デアルト
私ハ思フ、(拍手)次ニ内田汽船會社ノ點ニ於テ簡單ニ述
ベマスルガ、是ハ最初ノ關係ヲ少シク述べナケレバ、ナラヌト
思フノデアルマス、最初内田ノ汽船ノ買収セラレル前ニ於テ、
田中末雄ナル人ヨリ、六千三百噸ノ買収ノ契約ヲ滿鐵ガ
セラレテ居タルト云フコトハ、事實デアル、其噸當リ三百
二十五圓ト云フコトモ事實デアル、然ルニ衆議院議員選
舉ノ數日前ニ當テ、此田中商會トノ契約デアッテ、而モ既ニ
四十五萬圓ノ内金手附金ヲ渡シタモノヲ突然解約致シ
テ、新タニ八千五百噸ノ汽船ヲ三百二十五圓ノ割で滿鐵
ガ買ハレタルト云フコトガ、本件非難ノ爭點トナシテ居ルノデ
アルニ就テハ六千三百噸ノ船ヲ、三百二十五圓で買ハレ
タルト云フ以前ノ歴史ヲ一ツ述べナケレバ、判リマセヌ、其歴史
ヲ調べテ見マスルト、滿鐵ノ營業上、大連汽船株式會社ト
云フモノヲ立テ此水運上ノ營業ヲ致シテ居ルノデアリマシ
テ、名前ハ違テ居ルガ、是ハ滿鐵ノ一ツノ分身ニ過ギナイモ
ノデアル、同會社ト云フモノ宜シイノデアル、此汽船會社ノ株
ハ全部滿鐵持チテアルカラ、其事實ガ能ク判リ、デアリマ
ス、所ガ此大連汽船會社ニ於テ、前ニ六千三百噸ノ船ヲ註
文致シタイト云フコトハ、滿鐵ノ航路ト云フモノハ、御承知
ノ如ク大連ヨリ上海ニ至ル支那沿岸ノ近海航路ノミデ
アリマス、近海航路デアルカラ大イ船デハ間ニ合ハナイノデ、
六千三百噸ガ手頃ノ船デアルト云フノデ、之ヲ買収契約ヲ
スルニ至ッテアル、ソレカラ第二ニ早速君ノ述べテラレタ註
文價格ハ、鐵ノ單價ニ依テ高下スル契約デアリマスカラ、場
合ニ依ッテハ三百二十五圓以下デ買取ルコトガ出來ル便
益ヲ持ッテ居ル、第三ニハ前ノ田中商會ノ船ハ三隻造船所

ガ製造スルノデアルカラ、造船ノ信用上十分ナルモノデアル
斯ウ云フヤウナ理由カラ前ノ買収契約ガ出來タモノデアル、
然ルニ只今モ申シマシタル通りニ、俄ニ八千五百噸ニ變ヘ
ルト云フコトハ甚ダ不思議ナル事デ、之ニ就テハ滿鐵會社
ハ一連汽船會社ハ航路ニ説明ヲスルノデス、六千三百
噸ノ船デハ、支那沿岸ノ航路ニハ差支ハナイガ、遠ク撫順炭
ヲ新嘉坡、南洋方面ニ輸出スル所ノ遠洋航路ニ使用スル
ニ足リナイノデアルカラ、大キイ所ノ八千五百噸ニ變ヘタノ
デアル、斯様ニ滿鐵ハ説明セラレル——大連汽船會社ハ説
明セラル、ケレドモ、是ハ俗ニ謂フ所ノ頭隠シテ尻隠サズノ
責任ナキ所ノ説明デアラウト思フ、新嘉坡、南洋ノ遠洋航路
ニ六千三百噸ガ使用ガ出來ナイナラバ、初メカラ何故註文
ヲシナイカ、初メ何故註文ヲシナイカ、(拍手)初メノ註文ハ
大正九年二月デアリ、後ノ變更ハ同年五月デアッテ、三箇
月ノ間ノ隔リガアルデアル、八千噸級ノ船デナケレバ、遠
洋航路ニ使用スルコトガ出來ナイ不便ガアルナラバ、三箇月
前ニ於テモ同様デアラウト思フ、支那海、南洋ノ海ノ狀態ガ
三箇月ノ間ニ變タトハ本員ハ存ジマセヌノデアリマス、(拍
手)斯様ナ譯デアリマスカラ、此説明ハ殆ド問題ニナラナイ
ノデアル、ナラナイノミナラズ撫順炭ヲ新嘉坡南洋方面ニ輸
出スルコトハ、ドノ炭ヲ輸出スルノデアルカ、輸出スル炭
ガ無イデハ云フノハ、此點ニ就テハ早速君ノ事情調ト私ノ事
情調トハ、少シク違テ居ルノデアリマス、早速君ノ塔連炭礦
ヲ買フ必要ノ無イ理トシテ、撫順ト云フモノハ、貯炭ガ過剩
デアルト云ハレマスガ、私ノ調べタ大正八年度ニ於テハ過剩
デアルト云ハレマス、即チ本員ノ調査ニ依リマスルト、大正八年
度ニ於テ南滿鐵道ガ撫順、煙臺、龍鳳、有リト有ユル各炭
礦ヨリ採掘致シタル數量ハ、煙臺、龍鳳、有リト有ユル各炭
礦、關東州、朝鮮、即チ内地ニ販賣致シタルモノガ三百七十
萬噸デアル、差引三十三萬噸、一割モ殘テ居ナイノデアル、
百分ノ八シカ殘テ居ナイノデアリマス、此狀態ハ大正八年
度會社ノ營業報告ニ明記サレテ居ル、海外ニ遠ク輸出スベ
キ石炭ガナイノデアル、(問)遠テアルト云フ者アリ、問違テ
ハアリマセヌ、問違テアルト云フ者アリ、演説ノ責任ヲ
取ル爲メニ、海外輸出ヲ控ヘタルト云フ報告書ヲ朗讀致シマ
ス、(謹聴)ト呼フ者アリ、大正八年度ノ營業報告中ニ確ニ
載テ居ル、讀ンデ見マス、營業本年度内石炭ノ總採掘高
ハ三百三十八萬三千五百五十五噸、是ハ撫順ト煙臺タテ
リマス、此外ニ龍鳳ガアリマシテ、龍鳳ノ分ヲ合セルト、本員
ノ級上ゲタル所ノ三百七十七萬噸ニナルノデアリマス、ソレカ
ラ販賣高ハ三百七十七萬三千四百噸ナリト報告シテ居ル位
デアル、而シテ本年度ニ於テモ、又海外輸出ニ手控テ居ルシ
タ云フコトヲ書イテ居ル、賣ルベキ石炭ハ無イノデアル、(九
年度ハドウデス)ト呼フ者アリ、九年度ハ本年度ガ終リマス
カラ、マダ報告ガアリマセヌ、(血迷フナ)ト呼フ者アリ、斯様
ナ譯デアリマシテ、私ハ大正七年八年度ニ於テモ、會社ガ海
外ニ輸出スル所ノ殘炭ナキニ拘ラズ、之ヲ輸出スル爲メニ、
一度定メタル所ノ六千三百噸ノ買収契約ヲ俄ニ違約シテ

マデモ大キイ船ヲ買フ程ノ必要ハ無イト思フ、斯様ナ次
第柄デアリマシテ、此必要ノ論ト云フモノハ甚ダ信ジラレス
ノデアリマス、ソレカラ價格ノ點デアリマスガ、兩方共三百二
十五圓ナルガ爲メニ、價格ニハ餘リ議論ガ無イカ、如クデア
リマスケレドモ、是ハ調査ヲ致スルハ八千五百噸ノ三百二十
五圓ハ、時期ノ關係ニ於テ船ノ大ナル關係ニ於テ、造船
所ノ信用ヲ關係ニ於テ、當然高クテ不當ト云フコトガ
分ルノデアリマス、茲ニ大正九年船價取調表、殊ニ新造
大型ノ時價ヲ、日本郵船會社ニ於テ本員ガ取調ベタル所
ニ依リマス、前ノ大正九年二月田中ノ分、即チ六千三百
噸ノ分ヲ買タトキニ、元來時價ト云フモノハ大體ニ於テ
四百圓デアルトデアリマス、此當時四百圓デアリシモノヲ、
滿鐵會社ガ巧ニ交渉セラレテ、三百二十圓デアリシモノヲ
リ買船契約ヲシタノデアルカラ、是ハ時價ニ較ブレバ二割安
ノ利益ヲ置キ買船シタモノデアル、然ルニ三箇月ヲ經過シテ
大正九年五月、即チ第二ノ内田ノ買船ヲセラレ、當時ニ於
テ、財界激變船價暴落ノ爲メニ、四百圓ハ下ッテ三百圓ト
ナルノデアル、(拍手起ル)是ハ郵船會社ノ責任アルノ破
約致シテ、時價ヨリ凡ソ一割高キ所ノ、八千五百噸ノ船ヲ
三百二十五圓デアリタルト云フコトハ不思議ナ事デアル、
(拍手起ル)同ジ三百二十五圓デモ、時價ノ關係ニ於テ是
ダケ相違ガアルノデアリマス、價格ノ不當ナルコト、多言ヲ要
セズシテ明カデアルト存ズルノデアリマス、更ニ此買収ガ何故
ハ早速君ガ詳シク御述シタリマセヌ、此點タハ——私ハ大
正九年三月三十一日四月一日ニ、東京ノ滿鐵支社ニ於
キマシテ、先刻御話ヲ申上ゲタ前滿鐵課長、即チ本件摘發
者ノ山田氏ト重役トガ爭ヲ致シタコトガアル、其時ノ問答
ト云フモノヲ爰ニ引用致シマス、當時野村社長ノ申シマス
ルニハ、或筋ヨリ副社長ガ依頼ヲ受ケテ、内田ノ汽船ヲ買フ
コトニナッタルノデアル、(拍手起ル)我ハ何モ知ラヌ、何分頼ム
ト斯ウ社長ガ言タト云フ、中西副社長ハ、此問題ハ社長ガ
某サンニ——此某サンハ政府當路ノ大官タルコトハ、告白
書ニハ明カニナッテ居ル、唯タ爰ニ感ズル所デアッテ明言致シマ
セヌ、某ニ依頼セラレ引受來リシ爲メ、已ムヲ得ズ買フノデ
アル、十分宜ク頼ムト言タト云フコトノ明記サレテ居ルノ
デアル、成程要ラナイ船ヲ高イ値デアリマシマスカラ、已
ムヲ得ザル壓迫ガ依頼ガナケレバ、之ヲ買フベキ道理ハ無イ
ノデアル、(拍手起ル)是ハ此以上議論ヲ思フベキ事デア
アラウト信ズルノデアリマスカラ、爰ニ此推測ヲ止メテ置キマ
ス、是ガ即チ第二ノ點、モウ事實ノ演説ハ一ツ述べレバ終ル
ノデアリマスカラ、御辛抱ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、第三ハ電
化會社デアリマス、此電化會社ハ早速君ノ述べテラレタ事情
ニ依ッテ、雙方妥協ノ必要ガ起ッテ、之ヲ買収スルコトニナッ
ト云フノガ事實ノ根本デゴザイマスガ、是ハ會社側ノ辯明ニ
依リマス、ト已ムヲ得ズヤッタルノデアルカラ、別ニ不利益デナイ

ト云フコトヲ言ハル、ノデアリマスデレドモ、會社ト電化會社トノ契約ニ依リマス、早速君モ引用セラレタル通り、第十一條ニハ工場建設費ノ半額六十五萬圓ヲ賠償スレバ、何時デモ根本カラ解約ノ出來ルト云フ契約ニテ居ルノデアリ、五六十万圓ノ償打シカ無イモノヲ二百二十萬圓ニ買テ、五百六十萬圓モ損失ヲスルヨリモ、契約ノ通り六十萬圓ノ違約料何故解約ヲ爲サナカッタノデアリマス、(拍手起ル)第二ニハ送電探電料ノ賠償ト云フモノ、即チ當契約ニアリマス所ノ五千四百「キロワット」ト云フモノヲ送電スレバ宜イノデアリマスガ、是モ「キロワット」五厘ノ割ヲ以テ賠償スレバ、送電ナイデモ宜イト云フコトニナルノデアリ、此見積金額ハ一箇年二十萬圓ヲ以テ足ルノデアリマス、何モ百數十萬圓ノ高價ナルモノヲ買ハナクハナラヌト云フ理窟ハ無イト思フノデアリマス、會社ガ斯ノ如ク契約上有利ナル所ノ數箇ノ條件ヲ持テ居リナガラ之ヲ買ハタト云フノハ、取モ直サズ會社側ノ説明セラル、通リ、電化會社側ノ説明スル通り、一私人ニ對スル所ノ恩惠の行爲デアルト云フコトガ分テ居ル(拍手起ル)堂々タル法人デアリ、帝國ノ國有財産ヲ株式式ニシテ居ル所ノ南滿洲會社ノ數百十萬圓ノ金ヲ使テ、電化工業會社ト云フ一商人ニ恩惠の金額ヲ與ヘルト云フ餘格ハ會社ノ財政ニ於キマシテモ、帝國ノ國有財産ヲ擁護スルト云フ上ニ於キマシテモ、甚ダ不當ナル事デアラウト私ハ存ズルノデアリマス、(拍手起ル)之ニ依リマシテ以上三ツノ賣買ニ就テ、動機不正、價格不當、手續不正、此三ツノ事ガ大體分テ居ルデアリマス、私ハ爰ニ結論ト致シマシテ、二三ノ事柄ヲ述ベテ演說ヲ終リタイト心得テ居リマスガ、内容ニ於テ既ニ斯様ナル缺點ガアリマスノミナラズ、周圍ノ事情ニ於テモ、甚ダ怪ムベキ點ガ多イデアリマス、周圍ノ事情トハ何デアルト申シマス、此大正九年五月時分ハ、戰後經界激變ノ影響ヲ受ケマシテ、會社ハ事業大緊縮ノ實行中デアッタノデアリマス、從業員三萬五千人、社員九千人、此五分ノ一二相當スル所ノ九千人ヲ大正九年三月中突然解僱シタガ爲メニ滿鐵會社ニ於テハ、失業問題サハ惹起シタト云フ程ノ大緊縮デアリマス、斯様ナル緊縮ヲ致サル、當時ニ於キマシテ、賣買ノ非ヲ蔽ハシテ、事業擴張ノ必要アリ、擴張ノ必要アリト御述ニナリマシテモ、ソレハ社員從業員ノ五分ノ一ヲ減ゼラレタト云フ事ト、相對的ニ判斷ガ出來マセヌ(拍手起ル)第二ニハ當時會社ノ金融ハ頗ル逼迫ナモノデアリ、與業銀行デ千六百萬圓ヲ借ラル、二就デモ、大藏大臣ノ非常ナル斡旋ヲ受ケラレタト云フコトガ事實デアリ、第十回ノ社債ヲ募ル僅カニ南滿洲シテハ僅カト云ヒ得ルガ、第十回ノ社債ヲ一千萬圓募ルニ就デモ利廻年一割弱ノ不利益ナル條件デ募ラレタノガ事實デアリマス、金融ニ逼迫シテ居タコトハ明カデアリ、四億四千萬圓ノ大會社ガ千圓以上ノ物品ヲ買フトキニハ會計課長ト打合ノ上買テ吳レト云フ内情マデ行テ居タルニ於テハ千圓ノ必要物品ヲ會社ガ買フニモ、會計課長ト交渉ノ上買ハナクハナラナイ程金融逼迫ナル時期ニ於

テ、外或種ノ紳商政商ト何百萬圓ノ賣買ヲスルニ就テハ、社員ノ知ラナイ間ニ、高級理事ノ知ラナイ間ニ、一部ノ人ニ於テ之ヲ取急イデ行フト云フコトハ、益、以テ其背景ニ暗キ點ガアルト云フコトヲ斷言スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、(拍手起ル)斯様ナ譯デアリノミナラズ、又此取引シタル所ノ外部ノ人ノ關係ヨリ論ジテモ、怪シムベキ點ガ澤山アル、塔連炭礦ノ關係者ハ、院內ニ議席ヲ有セラル、同僚ナルガ故ニ、敬意ヲ表シテ其名ヲ奏ニ申サズ、只ダ某黨ノ有力ナル幹事ナリト云フコトダケハ、諸君モ御承知デアラレヤウト思フ、(拍手)凡ソ政黨ノ事情ト致シテ、一黨ノ幹事トナルニハ、相當ノ年所ト、政治の經歷ヲ多ク積マナケレバナラナイト云フコトハ周知ノ事實デアリ、(拍手起ル)然ルニ此關係者ナク一躍シテ黨ノ幹事トナラレタト云フコトハ、如何ニ俊敏ノ方デアルト云フコトヲ想像シテ餘リアルノデアリ、(拍手起ル)俊敏ハ惡シキ方面ニ用井レバ辛辣ナルノデアリ、(拍手起ル)是ガ塔連炭礦ニ關スル人ノ批評デアリ、觀測デアリ、第二ニ滿洲丸取引ニ於テ、八千五百噸ノ船ヲ程好ク賣付シタル神戶ノ紳商内田君ノ經歷ヲ調べ見マスルト、氏ハ從來各政黨モ關係ヲ有タル、趣デアリマスガ、私ハ何等面識ヲ有セマス、只ダ私ノ記憶ニアルニ、一昨年東海道ノ汽車ガ岐阜縣ニ於テ轉覆ヲ致シタ時、内田君ガ乘込マレテ居ラレテ、谷間ニ落込マレタト云フコトガアル、其時内田君曰ク、俺ハ神戶ノ内田ナリ、金ハ幾ラデモヤルカラ、命ヲ助ケテ呉レト云フテ叫バレタト云フコトガ新聞ニ載テ居タ、(拍手起ル)諸君、内田君ハ生命ヲ金デ買得ルト信ズル所ノ金權萬能ノ論者デアリマス、絶對物質論者デアリマス、斯ル頭腦ヲ有スル所ノ人柄ハ、生命ヲ金デ買得ルト信ズルノデアリマス、(拍手起ル)何物ヲ金デ賣ラント欲シタルヤモ測ラレヌノデアリマス、(ソコデ珍品)ト呼フ者アリ、更ニ第三ノ電化工業會社ノ關係者ハ、社長ガ確カ馬越恭平君デアリマス、昨午ノ衆議院議員臨時總選舉ニ於キマシテ、岡山縣ニ於ケル某政黨ノ本據ヲ覆シテラレタル所ノ實業政治家デアリ、斯ル立場ト態度ヲ執ラル、同僚ガ、實業界政治家界ノ表裏ニ涉テ、種々奇怪ナル複雜ナル行動ヲ執ラル、コトアルベシト想像シ得ル餘デアルト私ハ存ズルノデアリマス、(拍手起ル)斯様ナル次第デアリマシテ、本件ハ内部ノ關係ヨリ取引外部ノ關係ヨリ疑ハレタ程、其間ニ非違ノ想像ヲ付ケ得ル餘格ハ、十分決議案ニ明記セラレタス、(拍手起ル)故ニ吾、ハ爰ニ本件決議案ニ明記セラレタ如ク南滿洲鐵道會社内部ノ紊亂ニ對シ政府ハ監督ノ任ヲ怠リ得、其ノ情弊ヲ助長シ綱紀ノ頽廢其ノ極ニ達セリ政府ハ宜シク之ガ責任ニ任ズベシト云フ決議案ヲ已ムヲ得ズシテ提出ヲ致シタ次第デ、本員賛成ノ理由モ之ニ外ナラヌ次第デアリマス、(拍手起ル)爰ニ終リニ於テ私ハ一言述べ

テ演壇ヲ降リタイト思フノデアリマス、本件ハ決議案ノ末文ニ示スガ如ク、又政治上ノ監督責任ニ於キマシテ、當ニ滿鐵當事者ノミナラズ、政治關係上、官制ノ關係上、監督ノ責任上、政府ニモ責任アリト存ズル者デアリマス、(拍手起ル)此點ニ就テ過日貴族院豫算分科會ニ於テ、仲小路君ガ第一次監督ノ責任者タル關東廳長官、若クハ拓殖局長官ニ對シテ滿洲ニハ阿片問題ト云ヒ、南滿洲問題ト云ヒ、種々醜怪ナル所ノ事情ガ露出スルガ、之ニ對シテ監督官憲タル諸公ノ見所如何ト云フ仲小路君ノ質問ニ對シテ、兩長官トモ、痛心ノ至リニ堪ヘズト云フ意味ヲ漏ラサレタヤウニ記憶ヲ致シテ居ル、(拍手起ル)果シテ然ラバ本件ノ決議案ノ内容ノ如ク、憂ヘル者當ニ本員等ノミナラズ、政府當局ノ監督者モ間接ニ此建議案ニ賛成ヲ致シテ居ラル、モ同僚デアリ、(拍手起ル)斯様ナ譯デアリマスカラ、事ハ一會社ノ内事ノ如クデアリマスガ、本件ハ政治ニ關スル綱紀ノ維持ノ上ニ於キマシテ、政府信用ノ上ニ於キマシテ、政府ハ十分ナル責任ヲ執ラルベキモノト私ハ信ズルノデアリ、現政府ハ衆議院ニ...

○議長(外繁三郎君) 一寸濱田君御待ヲ——議場デアハ參考書ノ外、新聞等ノ配付ハ許シマセヌ

○濱田國松君(續) 私ハ爰ニ一言ヲ殘シテ壇ヲ降リ積リデアリマスガ、現政府ハ衆議院ニ絶對過半數ヲ有セラレルノミナラズ、貴族院ニ於テモ——貴族院ニ於テモ其一部ノ人ミガ口デハ貴族院ト云フモノハ政黨政派ノ外ニ超越ヲ致シテ、政治紛糾ノ場合ニ於テハ、政府ト國民ノ間ニ調定ヲ致セバ、責任ヲ持テ居ルモノデアルト國民ノ一部ノ諸公ハ申サレテ、其行ニ於テハ我黨ハ當議院ニ絶對除外例ヲ許サズ不服アル者ハ脱會セヨト云フ如キ、下院ノ政黨以上ノ拘束ヲ以テ政局ヲ左右セントスル、上院ニ於テモ上院ニ於テモ我事爲スニ足ル、我ハ天下ト共ニ春風ニ坐セリト思ハレテ居ルノガ、現内閣諸公ノ御意當デアルト私ハ思フ、併ナガラ天下ハ春風デモナケレバ、春水デモナイ、左様ニ安靜ナルモノデアナイ、何故カナレバ國民ノ一部ハ申シテ居リマス、國民ノ一部ハ確ニ申シテ居ル、廟堂ノ上人ヲ殺スモ臣節全キモノアリ、言ヲ食ムモ風教ヲ維持シ得ベシト爲ス者アリ、橫暴專恣眼中人ナキガ如シ、(ヒヤ)、「拍手起ル」平民ニ非ラザル者ハ國民ニ非ラザルカト申シテ居リマス、(拍手)今ヤ貴族院ニ於キマシテハ、文相問責ヲ以テ一ノ谷ノ戰ハ終リマシテ、平氏ノ船ハ今屋敷ニ在リマス、(其通り)「ヒヤ」、「ト呼フ者アリ」船首高ク掲グル所ノ紅ノ扇ヲ射テ欲スル者ハ、在野少數ノ吾、ミデハナイノデアリマス、多數ノ國民ハ盛ニ鼓ヲ敲イテ吾、ト呼應致シテ居リマス、(拍手)政黨内閣ノ行クベキ所ハ壇ノ浦デアリマセヌ、執ルベキ責任ハ快ク執リ、退クベキ時ニ潔ク退イテ、政黨内閣ノ功完キモノト存ジマス、機ヲ知ル夫レ神カ、殷鑑ハ近ク山本内閣ノ末路

デアル、(ヒヤ)「拍手起ル」現内閣諸公ノ猛省ヲ希望シ
テ此壇ヲ降りマス

○議長(奥繁三郎君) 中西六三郎君

○中西六三郎君 先程ヨリ本案ヲ御提出ニナリマシタル

理由、並ニ御賛成ノ理由ヲ精細ニ拜聴致シマシタ、幾多ノ

事項ニ涉リテ御説明ガアリマシタガ、要スルニ其述ベラレマ

シタル事項ノ總テハ、吾々ノ手ニ於テ豫テ閱覽致シテ居リマ

ス、山田潤二氏ノ辭職理由由書ノ中ニアルモノ、外ニハ、何物

モ承ハナカタルデアリマス、(ノウ)「拍手」起ル、諸君

ハ定メテ此山田氏ノ辭職理由由書ヲ詳シ御覽ニナリマシタ

ラウガ、私ハ再三丁寧ニ此書面ヲ熟讀致シマシタ、正ニ或ル

強ト印象ヲ與ヘラレテ居リマス、此書面ハ只ダ何等價値ナ

キ文書ナリトシテ斥ケ去ルベキモノデハナイト私ハ考ヘテ居

ル、(勿論)「ト呼フ者アリ」如何ニモ此會社ノ内部ニ於テ親

シク事務ニ當テ居タル人ガ、假令其何ノ事情デアラウトモ、

是程ノ力ヲ極メテ調ベタル事柄ヲ公ニ致シテ居ルデアラカ

ラ、吾々ハ之ニ對シテ、相當ノ注意ヲ以テ吟味致サナケレバナ

リマセヌ、隨テ此提案ガ滿鐵ノ内部ニ於テ篤ト吟味スベキ

紛擾ガアルデアラウト云フ疑ノ下ニ政府ヲシテ監督ノ實ヲ

舉ゲベク鞭撻ヲスル意味ニ止マテ居レバ、吾々ハ相當ノ敬意

ヲ拂ハナケレバナラヌと思フ、然レドモ此案ハ直チニ此理由ノ

下ニ於テ、責任ヲ政府ニ嫁スル彈劾案トナシテ居ルガ爲メニ

吾々ハ爰ニ此對理由由申述ベナケレバナラヌデアアル、(拍手)

如何ニモ此ノ對面ハ吾々ヲシテ一應ノ疑ヲ起サレバ、即チ調

査ヲ爲スベキ基礎事情トシテ價値ハアルガ、直チニ之ヲ以

テ或ル事實ヲ確定スル所ノ唯一ノ證據ニ致スト云フコトハ

是ハ甚ダ早計ノ事デアリマス、(ヒヤ)「拍手」私ハ此問題

ニ對シテ、夥多ノ攻撃非難ガ加ヘラレテ居リマスモノヲ精細

ニ分析致シマスト云フ、直接ノ理由トシテ見ルベキモノト、

間接ノ事情トシテ見ルベキモノトガアル、即チ直接ノ理由ト

シテ見ルベキモノハ、此賣買ハ不必要デアッタ、假キ是等ハ

要アリトスルモ、代價ガ不相當ニ高カッタ云フ、如キ是等ハ

總テ直接ノ理由デアアル、是等ノ直接ノ理由ニ對シテハ、賣買

ノ對手方ヨリ相當ノ辯明書ガ出テ居リマスガ、是ハ彈劾者

カラ言ヘバ一向ニ價値ガ無イト言ハレバ、(其通り)「ト呼

フ者アリ」吾々此問題ニ向テ初メテ觸レタ者ニ於テハ、此

直接理由ハ彈劾者ノ人ノ言フコトモ一應ヨリ傾ケルト共ニ

又當路者ノ辯解ニ向テモ、相當ノ審議ヲ盡サナケレバナラ

ヌデアリマス、然ルニ彈劾者ノ諸君ニ於テモ、或ハ世間ニ

於テモ、此問題ニ向テ或程度マデ惡シキ印象ヲ殘シテ居ル

カト思フ、寧ろ多クハ此間接ノ理由ニ基ツイテ居ルデア

アル、(ノウ)「私ガ此辭職理由由ヲ讀ンデ見テモ、即チ間

接ノ理由、其當時ニ於ケル周圍ノ事情、或ハ其他此書面ノ

中ニ在ル所ノ或種ノ人ノ談話等、是等ガ少クトモ人ニ強キ

刺激ヲ與ヘル事柄デアリマス、是ニ於テ私ハ是等ノ間接ノ

事情ハ、吾々ハ如何ナル程度マデ之ヲ信用スベキモノデア

マノデアリマス、私ハ試ニ他ノ一切ノ事情若クハ調査ヲ斥ケ

マシテ、只ダ單ニ此文書其物ノミニ就テノ批評ヲ試ミテ見

シタト思フ、此文書ニ依ルト云フ、先程鶴澤君ガ言ハレマ

シタ如ク、滿鐵ノ内部ニ於テ、職員ノ間ニ甚ダ不和ノ狀態ガ

アルノミナラズ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

フ事ガ窺ハレハ、是ガ系統ノ二、極メテ深キ根ヲシアルト云

アルガ、又必要ニ迫レバ此會社ノ爲メニ六十五萬圓ノ裏書

ヲシテ、次第ニ依テ進シテ、會社自ラガ之ヲ引受ケテモ宜イ

ト云フ覺悟ヲ以テ進シタルコトサヘモアル、斯ルモノデア

ル故ニ、會社ノ事情ノ進展ノ場合、若クハ是ガ變化アル

ル場合、當リマシテ、會社ノ整理ノ上ニ於テ、寧ろ買収スル

コトノ必要ヲ認メタル場合ニ當テ、只ダ既往ノ事情ニ於テ

ノ……

○議長(奧繁三郎君) 春日君ニ注意シマス

○中西六三郎君(續) 價ノ量定スベキ答ハナイデアリマ

ス、但シ吾々ハ爰ニ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

ス、假令シ吾々ハ今ハ價ノ買收シタル價ガ果シテ相當デアリマ

大正六年ニ引受テ六十五萬圓ノ實際ニ投資ヲ爲シ、ソレカラ後時代ニ應ジテ段々經理ヲ進メテ參リマシタルモノヲ滿鐵ガ自ラ經營スルコトノ必要ヲ認メテ、之ヲ買收スル場合ニ當リマシテハ、マダ其當時ニ於テ特主ノ足許ヲ見テ、叩クタク叩カケレバナラヌト云フ如キ、左様ナル最モ低キ程度ニ在ル商人ノ掛引ヲシナケレバナラヌトハ、吾々ハ信ズルコトガ出來ナイ(拍手)吾々ハ……

○議長(與繁三郎君) 三木君ニ、春日君ニ、佐々木千秀君ニ注意致シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 三木君ノ發言ヲ禁止シマス

ト云フ理由ノ下ニ、此人ノ責任ヲ取除カウト致シテ居ル、是程此山田ト云フ人ハ、人ノ上ニ於テノ責任ノ分析ニ癡心ヲシテ居ル跡ガアル以上ハ、吾々ハ此文書ニ依テ人ノ責任ヲ吟味スル上ニ於テハ、最モ深キ注意ヲ警戒スルコトハ出來ナイノデアル(ヒヤ)「本論ヲヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ、拍手(更ニ滿洲丸ノ買收ニ就テハ、最モ深キ注意ヲ警戒スルコトハ、私ハ此滿洲丸ノ買收ガ行ハレタル價值ガ果シテ相當デアルシカ、若クハ攻撃スルハ、廉キ價值ガ相當デアルカト云フコトヲ、私自ラ判斷スルハ、モロモロノデアル

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 中野君ノ發言ヲ禁止シマス

カ少クモ罪ヲ成サズト雖モ、政治的ニ問題スベキモノガア、タト云フナラバ、其機會ニ於テハ、吾々ハ當然吾々ノ分限デ以テ其非違ヲ糾サケレバナラヌノデアル、若シ諸君ガ今ノ司法機關ノ吟味ヲ靜ニ待チ、政府ガ其職責ニ於テ更ニ取調ヲ進メル所ノモノヲ待テ、而シテ是等ノ結果ニ於テ得タル絶對ノ眞實ヲ全ク……

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(與繁三郎君) 植原君ノ發言ヲ禁止シマス

○議長(奥繁三郎君) 諸君ニ注意シマスガ、議場デ新聞ヲ閱覽スルコトハナリマセヌカラ……
○森田茂君(續) 滿鐵ニ對スル政府ノ責任ヲ怠リタル事實ニ就テハ……

(此時發言スル者多ク議場騒然)
○議長(奥繁三郎君) 靜ニ……

○森田茂君(續) 殆ト世上ニ於キマシテ、到ル處ニ是非難ノ聲ヲ聞クニ至リマス、且ツ貴族院ニ於キマシテモ、御承知ノ如ク本會議(誰モ聽イテハ居リマセヌ)ト呼フ者アリ。若クハ豫算委員會ニ於キマシテ、其問題ガ非常ニ八釜シク傳ヘラレテ居ルコト云フコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス(森田君誰モ聽イテ居ラヌ)ト呼フ者アリ。衆議院ニ於キマシテモ、本會議及委員會ニ於テ、非常ニ論議ヲ受ケテ居ルコト云フコトハ、是亦事實デアリマス、只今私ガ新聞記者諸君ノ人ヨリ承リマス所ニ依リマスレバ、本日ノ貴族院豫算委員會ニ於テ、現政府ニ對シマスル殆ト彈劾ニ均シキ決議案ガ、多數ヲ以テ可決セラレタト云フコトガアリマス。(拍手起ル)多少ノ修正ハアルカハ存ジマセヌデスガ、私ガ立話ニ新聞記者諸君ヨリ聞イタル所ニ依リマスレバ、貴族院ノ豫算委員會總會ニ於キマシテ決議致シタル所ノモノハ、近來國家ノ綱紀漸ク弛廢シ外國威ノ伸暢ヲ礙ケ内民ノ安定ヲ缺キ征利私ヲ計リ義勇奉公ノ氣節ヲ萎靡セントス國家ノ大患ニ過グルモノナク洵ニ深憂ニ堪ヘザルモノアリ。云々ト云フ決議デアタト云フコトヲ聞キマシテ(拍手起ル)恰モ時ヲ同ジク致シマシテ(目ガ覺メタラウ)ト呼フ者アリ。吾ガ此決議案ヲ提出スルニ方リ、論議スルニ方リマシテ、貴族院モ丁度之ニ符合スルガ如キ決議案ヲ、大多數ヲ以テ可決セラレタト云フコトハ、所謂民意人心ガ此ニ一致致シマシテモノト私ハ考ヘマス。(拍手起ル)何ヲ言フテ居ルノダト呼フ者アリ。之ニ就キマシテハ此問題ニ對シマスル所ノ世論ノ如何ナルモノデアアルカト云フコトハ洵ニ明瞭デアリマス。(拍手起ル)而シテ此問題ニ就キマシテハ、申スデモナク政府ガ監督ノ任ヲ怠リマシテ、滿鐵會社ヲシテ殆ト收拾スベカラザルニ至ラシメタト云フコトデアアル、是ガ即チ事實真相デアリマス。(ソレハ或ハ此現内閣ノ罪惡ト致シマシテハ、其等ノ問題モ或ハ洵ニ微細デアアルカモ分リマセヌケレドモ、滿鐵會社ノ設立ニ鑑ミ、又其使命ノ上カラ考ヘマシタナラバ、吾ニ吾ニハ之ヲ雲煙過眼スルコトハ出來ナイノデアリマス、大體政府ノ監督ト云フ上カラ申シマスレバ、是ハ申スデモナク其事務ノ主管者ハ内閣總理大臣ニ屬シマシテ、内閣ニ直屬致シマスル所ノ拓殖局長官ガ其事ヲ執テ居ルノガ、之ガ官制ノ上ニ於テ定メタモノデアリマス、又關東廳ノ官制ノ上カラ申シマスレバ、其第一次ノ監督ハ、申スデモナク關東廳ノ長官ニ在ルト云フコトモ、是モ亦法律ノ明示スル所デアリマス、然ルニ是等ノ第一次ノ監督者、及事務主管者タル所ノ内閣ニ於キマシテ、此監督ヲ如何ニ致シテ居ルカト云フ上カラ申シマスレバ、是ハ實ニ言語道斷ナル事デアリマス、論ヨリ證據、貴族院ニ於キマスル所ノ豫算委員會

科會ニ於キマシテ、仲小路廉君ガ此監督ノ事ニ就テ質問ヲ致シマシタ場合ニ於テ、山縣伊三郎君ノ答辯スル所ニ依リマス。詰リ此會社タルモノハ、成程法律上ハ自分ガ第一次ノ監督スル責任ニ在ルケレドモ、實際ニ於テハ何等ノ監督ヲ致シテ居ナイ、當ニ監督致シテ居ナイノナラズ滿鐵ヲ我が官廳トノ關係ノ上カラ致シマシテ、ドウシテモ滿鐵ヲ我が官廳カラシテ之ヲ監督スルハ出來ナイ、地位ニ在ル、即チ先方ニハエライ人ガアル、我が官廳ノ方ニ於キマシテハ、是ヨリモ地位ノ低イ人ガアルカラシテ、ソレデハ之ヲ監督スルト云フコトハ出來ナイト云フコトヲ言フデ居ル、是ハ洵ニ山縣長官ガ率直ナル答辯ト致シマシテ、私共ハ其立場ナルモノヲ寧ロ同情スル位ニ思フデ居ルノデアリマス。(拍手起ル)然ルニ總理大臣ガ之ニ對シマスル所ノ答辯ニ至リマシテハ、是亦無責任極タモノデアアル勅令ノ上カラ申シマスレバ、自分ガ其事務主管ナルニ拘ラズ、一切此事ヲ知ラヌト云フデ居ル、而シテ事實ヲ指摘致シマシテ、是等ノ問題ハ自分ハ總テ知ラナイ、サウシテ之ヲ關東廳ヘ聽イテ見タル所ニ於キマシテモ、關東廳ニ於テモ左様ナ事ハ無イト云フコトヲ言フデサウシテ自ラ其責任ヲ盡シタガ如クニ原總理大臣ガ答辯ヲ致サレテ居ルニ至リマシテハ、是實ニ言語道斷ノ事ト謂ハナケレバナラヌ、此一事ヲ以テマシテモ、現内閣ガ職權ノ誹監督ヲ怠ラヌト責任ナルモノハ免ル、コトハ出來ヌト思フノデアリマス。(拍手起ル)「ノー」只今申シマシタヤウナ事ハ、我衆議院ニ於テモ豫算委員會ニ於テ述ベラレテ居ルノデアリマス、原總理大臣ノ如キ者ガ斯様ナ事ヲ知ラヌト云フコトヲ以テ寧ロ自分ノ得意ノ如ク考ヘ、山縣長官ハ寧ロ率直ニ私ノ手ニ至リト云フコトヲ以テ、事實ヲ告白スルコトヲ云フヤウナコトニ至リマシタノハ我が、所謂綱紀ノ維持ト云フモノハ何ニ依ラシテ出來ルノデアリマスカ(拍手起ル)私ハ多クク言フヲ要セズシテ、當然此政府ナルモノハ、之ニ對シマシテ相當ナル責任ヲ持タナケレバナラヌモノデアアルト云フコトヲ確信スルノデアリマス。(拍手起ル)「ノー」而シテ事實ト致シマシテ確定セラル、所ノモノハ何デアアルカト申シマスレバ(簡單)ト呼フ者アリ。第一ニハ此事實ノ内容、即チ會社内部ノ紊亂致シテ居リマスル事實ノ如何、(簡單々々)ト呼フ者アリ。及之レニ伴フ不正事實如何、又問題ト致シマスル所ノ不正ノ事實ノ行ハル、動機如何之ニ就テ疑ハシキ事アリヤ否ヤト云フコトヲ穿鑿スルコト及只今申シマシタルガ如ク政府ハ單ニ監督ヲ怠ラヌト云フコトニ止マルノデアアルカ、進ンデ政府ノ黑キ手ガソコニマデ伸ビテ、而シテ不正ノ事實ニ加ハテ居リハセヌカト云フコトヲ穿鑿モ必要デアリマス(「ノー」)

「ヒヤ」ト呼フ者アリ。而シテ最後ニ至リマシテ、之ニ對スル政府ノ責任如何ト云フ問題ニ歸著ヲ致シマスガ、大體是等ノ分類ニ依リマシテ多ク述ベルコトハ、是ハ今日ノ空氣ニ考ヘマシテ、最早其必要ハナイト思ヒマス、私ハ最早此點ニ就キマシテハ、他ノ諸君ヨリ、即チ贊成ノ諸君ヨリ之ヲ述ベ盡サレ、何時カノ決議案ノ場合ニ於キマシテハ、春景色デアルト云フコトヲ與黨ノ諸君ガ言ハレマシタガ、本日ニ限リ貴族院ノ方面カラ吹來ル風、及此議場ニ起リマスル所ノ氣分ニ依テ、所謂滿目荒涼春漸ク深カラントシテ、與黨及政府ニハ憂色アリト云フコトヲ私ハ盛言ヲ以テ、此光景ヲ寫スモノデアリマス(拍手)「春ノ花盛り」ト呼フ者アリ。故ニ私ハ此事實ニ就キマシテハ、之ヲ分類ノ二述ベルコトハ遠慮ヲスルノデアリマス(簡單)森田君ニ願ヒマス「ト呼フ者アリ」只今與黨ノ方カラ致シマシテ、鴉澤君ガ此問題ニ就テ御演說ガアタノデアリマス

(愚圖々々言ハズ早ク止メ給「ト呼フ者アリ」)
○議長(奥繁三郎君) 三枝君、靜ニ……

○森田茂君(續) 丁度鴉澤君ハ「シメシス」問題ノ場合ニ於キマシテモ此演壇ニ立タレ、サウシテ同ジヤウナ御議論ヲサレテ居ルノデアリマス、中西六三郎君ノ御議論モ多少ノ類似ノ點モアリマスガ、鴉澤君ハ司法官憲ノ手ニ移タモノデアアルカラシテ、是ハ司法上ノ處分ヲ待ツノガ當然デアルト云フコトガ第一ノ議論、サウシテ又裁判官ノ地位ニ立ッテ之ヲ判斷シナケレバナラヌト云フコトヲ言フノガ、是ガ第二點ト承デ居ルノデアリマス、併ナカラ自ラ其被告ノ地位ニ立ッデ居リマスル所ノ政府及其與黨ノ人ニシテ裁判官ノ地位ニ立ット云フコトハ、是ハ私ハ洵ニ事理ヲ轉倒致シタル所ノ(拍手)蟲ノ好イ話デアルト云フコトヲ考ヘルノデアリマス(拍手)「ノー」ト呼フ者アリ。又滿鐵ノ内部ノ事ニ對シマスル監督ノ點ニ就キマシテハ、鴉澤君ハ洵ニ怪シカラヌ御説ヲ述ベラレテ居ル(「ノー」)即チ業務ノ監督ハ是ハ支配スルコトノ出來ナイモノデアアル、斯ウ云フコトヲ言ハレタル、營業會社ニ對シマシテ監督ヲ致シマスル、即チ業務ナルモノハ是ハ事務デアアル、此事務ヲ監督スルコトガ出來ズシテ、果シテ何ヲ監督スルト云フコトデアリマスカ、私ハ今ノ制度ノ如クニ、拓殖局長官ニ之ヲ委セ切リニシテ置クト云フコトハ、是ハ鴉澤君ノヤウナ御議論ナラバ免モ角デアアル、惡イ事ヲシテ其儘デアルト云フコトヲ言フカモ知レナイノデアリマス、現在ノ批評ノ多キ拓殖局長官ニ之ヲ委スト云フコトハ、恰モ猫ニ魚ヲ保管サセテ置クト、私ハ同ジ事デアルト思フノデアアル(伯手)是デモ宜イト云フコトデアレバ、是ハモウ與黨ノ諸君ノ御勝手デアリマスケレドモ、私ハ斯ノ如キ事ヲ以テ決シテ満足スルコトハ出來ナイ、又鴉澤君ハ、大キク少シク鷹揚ニ出ナケレバナラヌト斯ウ云フ事ヲ言ハレテ居ル、是モ亦蟲ノ好イ御話デアリマス、平素ノ鴉澤君カラ聞クコトノ出來ナイ、珍シキ私ハ御言葉デアアルト云フコトヲ考ヘル、(拍手)給料ヲ支拂フコトガ出來ナクシテ、興業會社カラ千六百萬圓ノ金ヲ借りル、又一割ニ近イ所ノ社債ヲ募ル、又株金ノ拂込ヲ強要シテ一時ヲ糊塗スルガ如キ會社ガ、滿鐵ヲ喰物ニスル者ガアルト云フ場合ニ於テ、此監督ヲ鷹揚ニスルノガ寧ロ當前デアルト云フコトハ、是ハ何デアアル、盗人ノ取去ルニ委シテ知ラザル風ヲスルト云フコトデアラウカ、(拍手)私ハ宋襄ノ仁ト雖モ、斯ノ如キ事ハアルマイト思フノデアリ

マス(拍手)又中西氏ノ御議論ニ依リマスルト、鞭撻督勵ナ
ラバ賛成スルト斯ウ云フ御議論デアル、私共ハ鞭撻督勵ト
云フハ、是ハ或ル會社ガ未ダ之ヲ救フコトノ出來ル場合ニ
ハ、所謂鞭撻督勵デアルマスガ、既ニ今日ノ喰詰タル會社
ニ向テ之ヲ鞭撻シ、或ハ督勵スルト云フコトヲ現重役ニ委
シ或ハ現政府ニ委シ置クト云フコトハ、ソレハ事實上出來
ナイ事デアラウト思フノデアル(拍手)森田君、原敬ノ知テ
居ル事ヲ言テ呉レト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 一寸靜ニ——三木君靜ニ——三木
君、先刻發言ヲ禁止シテ「アリマスゾ」(退場ヲ命ジナサイ)ト
呼フ者アリ

○森田君(續) 只今申シマス如ク調査ヲ如何ニスルカ
(議場騷然)

○議長(與繁三郎君) 御靜ニ……

○森田君(續) 調査ノ結果モ分ラナイ、事實ノ不確定
ノ場合ニ於テ、此議論ヲスルノハイカナイト云フコトヲ中西
君ハ言ウテ居ラレタアリマスアレドモ、是亦頗ル誤タル
御議論ト云フコトハ、鶴澤君ノ御説ニ對シマシテ申上ダタ
ト同ジ事デアリマス(森田原敬ノ知テ居ル所ヲ言ウ
テ呉レト呼フ者アリ)

○議長(與繁三郎君) 一寸御待チ下サイ——三木君ニハ
發言ヲ禁止ヲ致シタノニ度之ヲ犯シマス、故ニ退場ヲ命
ジマス

○拍手、「三木退場シロ」退場シロ「退場々々」ト呼フ
者アリ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ——三木君ハ直チニ退場ナサ
イ

○議長(與繁三郎君) 議長ハ諸君ノ發言ニ依テ左右サ
レマセヌ、三木君直チニ退場ナサイ

○議長(與繁三郎君) 「イヤイケマセヌ」ト呼フ

○議長(與繁三郎君) 三木君ハ議長ノ命令ニ從ヒマセヌ
カラ懲罰委員ニ付シマス

○拍手「ヒヤ——」議長ヲ懲罰ニ付スベシ「議長シカ
リト呼フ者アリ」

○三木武吉君 森田君ノ演説ガ濟ンダラ議事進行ニ
關シテ發言ガアリマス、豫告シテ置キマス「ト呼フ」

○退場々々「早く退場シナイカ」ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 諸君靜ニ……

○森田君(續) 又中西君ノ御演説ノ中ニ於キマシテ、
山田潤二君ノ手記ナルモノヲ朗讀サレマシテ、之ガ價值如
何ヲ定メルト云フ御意見ガアタノデアリマス、所ガ此手記ニ
對シマシテ中西君ノ言ハレルニ、是ハ系統的專口反抗ニ
出テタルモノデアリ、何人カダ此仲間ガアルト云フヤウナ御
意見ガアタノデアリマスガ、私共ハ此事件ヲ判斷スル上ニ
於キマシテハ、事實ヲ基礎ト致スモノデアリマシテ、必シモ山
田潤二氏ノ手記ナルモノヲ以テ……(此時發言スル者多シ)

○議長(與繁三郎君) 靜肅ニ……

○森田君(續) 唯一ノ證據ト云フコトニハ致サヌデアリ
マス、假令三木氏ニ致シマシテモ——三木氏デアリマセヌ、山
田氏ニ致シマシテモ、或ハ系統的ニ之ニ反對スル者デアルト
致シマシテモ、或ハ又其人格ノ上ニ於キマシテ、吾等ノ聞ク
ガ如ク、寧ろ是ト反對ト於テ多少ノ非難スベキモノガアルト
致シマシテモ、此事件ヲ擧發スル上ニ於キマシテハ、決シテ是
ハ價值ニ何等ノ變更ヲ來スモノデアリナイデアリマス、凡ソ罪
惡ヲ擧發セラル、場合ニ於キマシテ、是ハ決シテ其君子ノ者
ガ——君子ノロヨリ致シマシテ聞ケルモノデアリナイデアリマ
ス中西君ノ或ハ御同前ニ關係致シマスル所ノ司法事務ニ
就キマシテモ、犯罪ノ發覺致シマスルノハ、矢張同ジ犯罪仲
間カラ發覺スルコトガ多ク、其意味カラ申シマスレバ、山田
潤二氏ガ假リニ惡イ者ト假定致シマシテモ、犯罪ノ發覺ノ
動機ヲ與ヘル上ニ就キマシテハ、是ハ國家ニ對シテ洵ニ忠實
ナリシモノト私共ハ考ヘルノデアリマス(拍手起ル)「ノウ
ノウ」此賭博キ道理ニ對シマシテ、中西氏トモアラウ者ガ斯
ノ如キ曲辯ヲセラル、ト云フコトハ、私共甚ダ遺憾ニ思フ次第
デアリマス(拍手起ル)「ノウ」中西氏ガ既ニ此山田氏
ノ手記ヲ朗讀セラレマシテ、之ヲ引用致シマスル限リハ、私
共モ殆ど是ガ全部ニ就キマシテ、少シク證據ト致シマシテ朗
讀ヲ致シタイノデアリマセヌカラ、此手記ハ演説ニ換ヘマシテ、速
記ニ添附シテ貴方ト云フコトニ致シタイと思フデアリマス、
(無用々々ト呼フ者アリ)大體斯ノ如キ事情デアリマシテ、
中西君ノ申シマスル、或ハ鶴澤君ノ申シマスル所ノ反論ト致
シマシテ問題ハ殆ど私ハ價值ナクコトヲ認メタデアリマス
(拍手起ル)「ノウ」事實ニ就キマシテハ、或ハ此塔連
ノ問題ニ就テ、此最高ノ權利ナルモノガ、東洋炭礦株式會
社ニ無イ隨テ其價格ナルモノハ、洵ニ是ハ廉イモノデアラ
スウ云フ吾等ノ主張ニ對シマシテハ、鶴澤君ノ如キ法律家
ヲ以テ此事實其モノヲ直チニ法律上ノ權利ヨリモモダ確
實デアルト云フニ至リマシテハ、是ハ言語道斷デアル、是亦
平生ノ鶴澤氏カラ聽クコトノ出來ナイ、私ハ詭辯デアルト云
フコトヲ申上ダテ憚カラヌノデアリマス(拍手起ル)殊ニ賣
買ノ目的タル此所謂增價區ナルモノニ就テハ、是ハ何人モ
爭ヒノアリマセヌガ如ク目下是ハ出願中デアリマシテ、未ダ
其權利ヲ獲得シタモノハ無イデアリマス、而シテ是ガ將來
許可セラル、ヤ否ヤト云フコトニ就キマシテハ、吾等ハ多大
ノ憂慮ヲ以テ之ヲ迎ヘナケレバナラヌノデアル、何トナレバ
支ノ間ト云フモノハ、昨今ニ至リマシテハ或反抗の考ヨリ致
シマシテ、支那側ハ殆ど悉ク我ニ對シテ反抗の態度ヲ持テ
居ルト云フコトハ、實際ノ事實デアアル、殊ニ滿洲方面ニ於
キマシテモ、實際ノ事實ト致シマシテハ、大體ハ滿鐵會社ガ滿
蒙開拓ノ使命ヲ持チ、又日支親善ノ其根柢タルベキ地位
ニ居ルニ拘ラズ、滿鐵所爲ガ惡イカ、支那側ノ僻ミカ知レ
マセヌケレドモ、實際ノ事實ト致シマシテハ、滿鐵ガ額ヲ出ス
ト云フト、支那側ハ之ニ反對スルト云フコトガ實際ノ事實
ノヤウニ聞エル、現ニ私共ガ聞イテ居ル所ニ依リマス「ト云フ

ト、遼西ニアリマス所ノ新邱炭礦ノ如キモノモ、滿鐵ガ之ヲ
經營スルト云フ上ニ就キマシテハ、到底支那側ノ諒解ヲ得
ルコトガ出來ナイ、ソコデ滿鐵ハ已ムヲ得ズ之ニ對シマシテ
ハ、他ノ名義ヲ以テ之ヲ經營シテ居ルト云フコトヲ聞イテ居
ルデアリマス、又武藤金吉氏共ハ殊ニ御承知アラウト思
ヒマスガ、大正七年ノ八月ニ、政府ノ命令ニ依リマシテ、內蒙
古ノ「タラハ」王府ニ於キマスル所ノ種羊場、即チ種羊
種羊場ノ設置ノ如キモノニ就キマシテモ、未ダ懸案ノ儘ニ在
リマシテ、我國ノ大ナル目的ト致シテ居ル所ノ棉業ニ關シマ
スル所ノ設計ハ、未ダ其緒ニダモ就クコトガ出來ナイト云フ
實際ノ事實ガアル、是等ノ事實カラ考ヘテ見マスレバ、今ノ
增價區ナルモノヲ滿鐵ガ果シテ權利ヲ得ルコトガ出來ルカ
否ヤト云フコトニ就キマシテハ、吾等ハ遺憾ナガラ多大ノ憂
ニ憂慮ヲ以テ、之ヲ迎ヘナケレバナラヌノデアアル(拍手起ル)
斯ノ如ク未確定ナル所ノ權利ニ對シ、增價區ナルモノガ主モ
ナル權利ヲ成シテ居リマスルガ、之ニ對シマシテ二百二十萬
圓ノ金ヲ投ズルニ致リマシテハ、更ニ何人ガ考ヘテモ其價格
ノ失當ニシテ、又賣買ノ行ハレル所ノ動機ガ、寧ろ不正デア
リシト云フコトヲ像想スルニ難カラヌノデアリマス(拍手起
ル)又鶴澤君ノ辯明ニ依リマスレバ、之ニ對シマシテハ、契約
ヲ解除スル權利ガアルト斯ウ言フテ居ル、解除致シマスレバ
損害ヲ取ラナケレバナラヌ、其損害ナル二百二十萬圓ト云
フヤウナ金ハ、是ハ誰ガ拂フテ呉レルノデアル、私ハ當席ニ居
リマスル所ノ森格君ノ財產調ベヲ致シタコトモ無イ、又元會
社ノ重役ノ方ノ財產調ベヲ致シタコトモ無イデアリマスガ
今ニ至テ契約ヲ解除シテ、サウシテ其損害ヲ取ルコト云フ上
ニ於キマシテ、是等ノ人ガドレダケ之ヲ確保スルコトガ出來
ルカ、私ハ是又甚ダ懸念ニ堪ヘヌ、權利ガアリマシトモ實際ノ
事實ガ擧ラナケレバ、是ハ何ニモナラナイ、森君ハ定メテ御
斷裁ナサリ言ハレタと思ヒマスガ、是ハ此事ニ就キマシテ御
斷裁ヲ致シテ言フノデアリマスガ、森君ニ今是ダケノ損害ヲ拂
テ呉レト言ウテ、是ハ森君デアルカラ大丈夫デアルト云フコ
トハ、此場合申上ゲルコトハ出來ナイ、斯様ナ不確實ノ權利
デアル、而シテ此賣買ノ行ハルト云フコトニ就キマシテハ、申
スマデモナイ總テノ人ハ之ヲ知ラズシテ、片山理事ノ如キ是
ハ之ニ絕對ニ反對ヲ致シテ調印ヲ拒ミ、川上理事ハ之ニ憤
慨ヲ致シマシテ理事ヲ辭職サスル、與業課長以上總て會計
課長ノ如キ者モ之ヲ知ラズシテ、東京ニ於テ問題ノ中西副
社長ト問題ノ森格氏トガ之ヲ勝手ニ結ンデ居ル、野田遞
相ノ恩惠——恩惠ト申シテハ失禮デアリマス、賢惠倭作君ガ、
何デモ三十萬圓ノ假支拂ヲ致シテ居ルコトヲ聞イテ居ル、
斯ノ如クニ致シマシテ此契約ガ行ハレテ居ルノデアリマスガ
之ヲ天下ノ第三者カラ見マシテ、此賣買ノ行ハレマスル所
ノ動機當然ノ事デアラウト思フデアリマス(拍手起ル)ハ、是
ハ私ハ當然ノ事デアラウト思フデアリマス(拍手起ル)殊
ニ此炭礦ニ對シマシテハ、大落盤ガアル、此落盤ノ爲メニ、現
在ニ於キマシテハ、廢坑ニ均シキ狀態ニナテ居ル、又滿鐵會
社ノ經營ノ上カラ申シマシテモ、種々ノ理由ヨリ致シマシテ

是ハ二十年先キニ於キマシテ、經營スル考ヘルノ相當デアリマスルガ、二十年先キノ爲メニ、給料ヲ支拂フコトモ出來ナイ會社、斯ノ如キ不意ノ仕事ニ對シマシテ、又不確實ナル權利ニ對シマシテ、二百二十萬圓ノ金ヲ投ズルト云フコトニ至リマシテハ、益其行ハレハシタル動機ノ不正デアルト云フコトヲ、立證シテ餘リアルノデアリマス。(拍手起ル)此意味カラ申シマシテ、敢テ司法官憲ノ手ヲ待ツ要セズ、又其結果ヲ待ツ要セズシテ、吾ハ十分ニ之ヲ論斷スルコトガ出來ル次第デアリマス。(拍手起ル)「ノウ」次ニ問題ノ大連汽船會社ニ於キマス所ノ汽船ノ買入、此問題ニ就キマシテモ、他ノ諸君カラ多ク申シ居リマススガ、私ハ多ク言フコトヲ致シマセヌ(「蛇蛇」止メ)「ト呼フ者アリ」鶴澤君ガ申シマスルニハ、六千噸等級ノ適當デアルカ、或ハ八千噸等級ノ適當デアルカト云フ事ハ、是ハ當業者ノ見解ニ委サネバナラヌト斯ウ言フテ居ル、是ハ普通ノ場合ニ於テナラバ當然ノ事デアリマセウガ、吾ハ及世間ガ之ニ對シマシテ問題ト致シテ居リマスルノハ、六千噸等級ハ適當ニシテ、サウシテ八千噸等級ハ不適當デアルト云フコトガ前提トナテ、即チ問題ニナテ居ルノデアアル、此事實ヲ解釋スルニ當リマシテ自ラ解釋セズシテ、之ヲ當業者ニ委シテ而シテ足レリト云フニ至リマシテハ、疑ヒヲ解クニ疑ヒヲ以テスルト云フコト、同ジ事デアラフ、何等ノ解決ヲ與ヘルモノデナイ(拍手起ル)私ヨリ申シマシレバ、是ハ解決ヲ與ヘルモノ出來ナイ地位ニ居ル人デアアル故ニ、斯ノ如キ詭辯ヲ弄スルモノデアラウト信ズルノデアアル(拍手起ル)價格ノ點ニ就キマシテ中西君ノ御説モアリマシテ、是亦頗ル不當タルコトヲ免レヌ(「モウ止セ」ト呼フ者アリ)日支與信所ニ於キマス所ノ例ノ辯明書、若クハ滿鐵會社ヨリ出マシタル所ノ辯明書等ニ依テ、或ハ大阪ノ商船會社ガ買入マシタル所ノ船ノ値打、此姉妹船ノ値打等ヲ引用致シマシテ、色々ノ事ヲ申シ居リマスガ、此船ニ就キマシテハ、此所ニ居ラレマスル文部大臣中橋君ガ仲介者デアアル、中橋君ガ之ヲ押付ケタルコトヲ云フ事實ガアリマシテ、一噸三百二十五圓ニ賣テ居ルト云フ事實ガアリマシテ、故ニ是ハ矢張同ジ目的ヲ以テ、同ジク政府ノ手ガ其所ニマデ伸ビテ遣テ居リマス仕事デアアルカ、姉妹船デアリマススガ、同ジヤウナモノデアリマス、此姉妹船ヲ以テマシテ、他ノ一方ノ價格ノ算定ヲシヤウト云フニ至リマシテハ、殊ニ同シ人ガ之ヲ扱フテ居ル上ニ於テ、到底是ハ論理ノ許サザル所デアラウト私ハ考ヘマス(拍手起ル)私ノ惡意ニ致シテ居リマス所ノ神戶ノ船船所有者ガ、丁度昨年ノ三月ニ於キマシテ、内田石川島造船所ノ對シテ、同ジク八千五百噸級ノ船船ヲ一隻注文致シタルデアリマスガ、是ハ丁度ラカト申シマスト一噸二百五十圓デアアル、一噸二百五十圓デアリマシテ、ハヤ既ニ本年ノ三月二十三日ニハ進水セラレルト云フコトニナテ居ルノデアアル(拍手起ル)政府ノ手ヲ經ナケレバ則チ二百五十圓デ上等ノ船ガ出來ル、政府ノ援助ヲ得ルガ爲メニ三百二十五圓ト云フ噸當リニナルト云フコトニ至

リマシテハ、此間ニ於キマシテ、世人ガ所謂想像シマス所ノ不正ナル事ガ行ハレテ居ルト云フコトハ、此事實ニ依テ、私ハ海ニ明瞭デアルト考ヘルノデアリマス(拍手起ル)殊ニ山田氏ノ山田一潤ニト云フ人ノ言フ所ニ依リマスレバ、彼ノ塚本會社長ガ例ノ内田君ト共ニ東京ニ參リマスレバ、彼ノ中ニ於テ、ドウカワレハ三百二十圓ニ買ウテ吳レト言ヒアリ、翌日ニ於キマシテ是ガ三百二十五圓ニ、本人ノ希望スルヨリモ更ニ五圓高ク賣ラレテ居ルト云フコトニ至リマシテハ、(「ソレハ山田ノ言フコトダ」ト呼フ者アリ)此間ニ於キマスル所ノ海ニ奇怪ナル、又不正ナル事實ヲ想像スルニ餘リアルコト、思フノデアリマス(「ソレハ憲政會ノ仕事ダ」商賣敵ト云フコトヲ知ヌノカ)ト呼フ者アリ)此問題トナテ居リマス所ノ電化工場ノ事ニ就キマシテハ、或ハ早速君ヨリ、又濱田君ヨリ論ゼラレマシテ……

テ居タルコトハ、諸君御承知ノ通りデアアル、然ルニ世間ノ攻撃ニ堪ヘズシテ、此滿鐵內閣ヲ崩レ、改野氏ノ如キハ何デモ政友會ヲ脱シテ、暫ク餘喘ヲ保ツテ居タル如クニ私ハ聞イテ居ル、或ハ政友會ヲ脱シナカタナラバ、此點ハ取消シテモ宜イ、斯様ニ私ハ聞イテ居ル、現內閣ニ至リマシテ、所謂天下意ノ如クナラザルナシト云フ考ヲ以テ、又余ノ好人物ノ野村氏ヲ社長ニ推シテ、而シテ精悍ニシテ、又餘リ柄ノ好クナイ中西某ヲ副社長トシテ、(拍手起ル)其目的ヲ達スルニ至ラタト云フコトハ(無禮ナ事ヲ言フナ)ト呼フ者アリ)之ニ對シマシテ吾ハ、不正デアアル、政府ノ黒イ手ガ之ニ延ビテ居ルト云フコトハ、當然ノ歸結トシテ、私ハ生レ來ル所ノ論理デアラウト思フノデアアル(拍手起ル)只今モ申シマスルガ如ク、關東廳長官ハ、直卒ニ申シマスレバ海ニ御人好シデアリマシテ、其監督ノ任ヲ盡スコトガ出來ナイ、原總理大臣ハ、兎角ノ評判ノアル拓殖局長官ヲ其監督官ト致シマシテ、自ラハ之ヲ知ラザルガ如キ眞似ヲモ、知ラザルノヲ以テ却テ得意ト致シマシテ、茲ニ噴職ノ事實ヲ來シテ居ルト云フコトニ至テハ、(拍手起ル)決シテ吾ハ、ハ容スコトノ出來ナイ問題デアルト云フコトヲ確ク信ズルノデアアル(拍手起ル)「ノウ」ト申スマデモナク滿鐵會社ハ、三十七八年後ノ所謂產物デアアル歐亞交通ノ所謂幹線トモナク、又滿蒙ノ開發ニ於キマシテ重大ナル關係ヲ有テ居ルハ勿論、此日支親善ト云フ上カラ申シマスレバ、寔ニ重大ナル意味ト、サウシテ是ガ安全辨タル關係デアアルニ拘ラス、今ハ却テ支那側ノ反感ヲ買ヒ、重役共ノ專横ナルコトニ委シテマウテ、政府ガ之ヲ監督セズ此重大ナル會社ヲシテ、海ニ吾ハ、聞クニ忍ビザルガ如キ醜態ヲ演ゼシムルト云フニ至リマシテハ、御同前ニ是ハ國家ノ爲メニ慨ハシキ次第デアリルト信ズルノデアアル(拍手起ル)「ノウ」之ヲ善導シテ之ヲ助長セシムルコトハ、即チ政府者當然ノ責務デアリマシテ、又其責任ノ重大ナルモノト考ヘマスルニ、却テ之ヲ喰物ニスルト云フニ至リマシテハ、言語道斷ノ事ダト私ハ信ズル(拍手起ル)政府ハ此紊亂ノ事實ニ對シテ、其責任ヲ負フベキコトハ當然デアラウト私ハ信ジマス、殊ニ貴族院ニ於キマス所ノ關係ヨリ見マシテモ吾ハ、愛ニ此決議案ヲ提出ラマシマスルノハ、時局ニ對シマスル所ノ一ノ清涼劑デアアル、又一ノ淨血劑デアアルト云フノデアアル(拍手起ル)諸君是ハ「ヨード」ノ如キ「ヨード」ノ如クニシテ、靜脈ニ注射スルガ宜イカモ知レナイ、或ハ又皮下注射ヲ致シテモ效能ガアルカモ知レナイ、又服ミ惡ルケレバ、「オブラッド」ニ包ンデ服ンデモ宜カラウト思フ(拍手起ル)喰言致シマスル者、或ハ阿片ヲ食フ者、其他ノ海ニ包ンデ服ムト云フコトハ、當然ノ事デアラウト思フ(拍手起ル)此意味ニ於キマシテ、諸君モ用捨ナク吾ハ、決議案ニ賛成セラレシコトヲ希望シマス(「馬鹿言フナ」ト呼フ者アリ)決シテ御遠慮ニ及バヌデアアル(拍手起ル)終リニ茲ンデ一言致シマスルガ、本日ノ議場ニ於テ、或ハ珍品トカ、又色々ノ事ヲ申シテ居ルノデアリマスルガ、是ハ實ニ言語道斷ノ語デア

○議長(與繁三郎君) 靜肅ニ……

○森田茂君(續) 殊ニ濱田君カラ申シマスルガ如ク、斯ノ如キモノハ何故ニ契約ニ依テ、之ヲ其工場ニ設備費ノ半額ヲ支拂フテ以テ解除シナイカ、斯ウ云フ契約ニ對シマシテハ、政府ハ何等ノ之ヲ辯解スルコトガ出來ナイと思フノデアアル、殊ニ之ヲ新タニ經營スルコトガ出來ナイ問題デナイ、之ヲ廢業シシマシテ閉鎖スルト云フコトガ、雙方ノ間ニ於テ諒解ヲ得テ、サウシテ唯之ニ送ルベキ電力ヲ政府切リテ無理ニ計算ヲ致シマシテ、斯様ナ不當ナ値ヲ付スルト云フコトハ、是ハ實ニ私ハ滿鐵ヲ喰物ニスル政府デアルト信ハレマシテモ、一向仕方ガナシと思フ(「ノウ」拍手起ル)此監督ヲ行フベキ政府ガ、滿鐵ヲ間接ニ喰物ニスルト云ハレテモ何ノ辭ガアル(拍手起ル)況ンヤ吾ハ、聞ク所ニ依リマシレバ、是ハ或不正ノ目的ニ使用サレテ居ルト云フコトヲ吾ハ確ニ聞イテ居リマス、(「ノウ」泥溝ヲ浚ヘ)ト呼フ者アリ、拍手起ル)斯ノ如キハ關係カラ致シマシテ、一般的證據カラ申シマスレバ、只今申シマスルガ如ク、(「全クゼロ」ト呼フ場合ニ於テ、何故ニ他ノ會社ヲ援ケネバナラヌカ、斯ウ云フコトニ對シマシテ政府ニ辯解ガアルカ)「嘘バカリ言フナ」ト呼フ者アリ)或ハ又一口ニ申シマスレバ、大連汽船會社ノ汽船買入ニ對シテ、何故ニ六千噸級ノ田中ニ契約シタモノ、之ヲ内田ニ變更シナケレバナラヌカ、何故ニ之ヲ更ヘニナラヌカト云フコトニ對シマシテ、恐ラク辯解ハアルマイト思フノデアアル、又出來マイト思フノデアアル(拍手起ル)當路ノ都合ガアルハ、又出來マイト思フノデアアル(「ソナナ事ハ何遍モ言フタ」簡單「簡單ヲ要ス」ト呼フ者アリ)私共ノ元來聞ク所ニ依リマスレバ、政府及與黨ニ於キマシテハ、從前ヨリ此滿鐵會社ニ對シマシテハ、所謂虎視眈眈タル有様デアッタ「狙」テ居タル、ソレ故ニ山本內閣ノ時ニ於キマシテ、今ノ社長タル例ノ野村氏ヲ會長ト致シ、而シテ伊藤大八君、是ガ副總裁ト致シテ(拍手起ル)サウシテ之ヲ乘取ラウト致シ

リマシテ、我カ決議案ニ對シマシテ、現政府ガ迎モ之ヲ眞正
面ニ受ケルコトガ出來ズ、之ヲ與黨ノ或者ニ命ジマシテ、斯
ノ如キ風説ヲ流布サセ、(「ノウ」)之ヲ曲解致シマシテ、而
シテ此銳鋒ヲ挫カントスルノ策ニ外ナラズ、デアル(拍手起
ル)「馬鹿ヲ言フナ」ト呼フ者アリ、議場騷然、一言御聽ナサ
ル、私ノ知ル所ニ依リマシレバ、與黨ノ諸君ニ於キマシテモ、
此決議案ノ出マシタル爲メニ、吾等金ヲ取テ居ラヌ者ハ洵
ニ迷惑デアル、黒白ヲ明カニシテ吳レト云フ請求ガ大變アル
ル、八登シ、ソコニ至テ何カ猫ノ兒ニ弄フ物ヲ與ヘル
ガ如ク、若クハ獅子ニ珠ヲ與ヘルガ如クニシテ、暫ク此銳鋒
ヲ避ケ、或ハ又人ノ心ヲ轉化セシムル必要ノ上ニ於テ、(大
キナ事ヲ言フナ)ト呼フ者アリ、諸君ノ既具ニ致シマシテ、色
ヲ寫眞指版ヲ拵ヘテ(拍手起ル)而シテ諸君ノ氣ヲ他ニ轉化
サセルト云フコトニナラシメ居ル、(「ノウ」)諸君ハ此重大
ナル不正事實ヲ前ニ致シテ置キマシテ、心ノ奥底ヲ敲イテ見
レバ吾等ト共鳴スベキニ拘ラズ、爰ニ既具ヲ供セラレテ其方
ヘ氣ヲ轉化サセテシマテ、サウシテ國家ノ大事ヲ忘レルト云
フニ至リマシテハ、言語道斷ノ事ダト私ハ信ズル(拍手起
ル)只今申シマスル如ク、此決議案ナルモノハ清涼劑デアル
諸君ガ必ズ之ヲ御服ミニナルコトヲ私ハ切ニ諸君ニ勸告ス
ル、必ズ丸服ミニナサテ然ルベキモノデアルト云フコトヲ、此
際申シテ置キマス(拍手起ル、恥ヲ知レト)呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 高見之通君
○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

○議長(與黨三郎君) 諸君ニ申シマス、高見君ハ議事進
行ニ就テ發言ヲ求メラシメタルヤリシマシテ(拍手起ル)
○高見之通君 諸君私ハ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メ
シタ、其理由ハ只今議長ヨリ新聞ヲ見デハイケナイト云フ御
注意デゴザイマシタ、諸君此新聞ガ若シ本案ノ解決ニ何等
關係ナキモノナラバ、之ヲ見ルコトヲ許スベカラザル事當然
デアリマス、併ナガラ此新聞ハ、參考書類トシテ之ヲ讀ムコ
トヲ許スニ何ノ差支ガ無イト考ヘラガ故ニ、私ハ議長ニ向
テ(議院規則ヲ知ラヌノカ)ト呼フ者アリ、只今御配付ノ新
聞ハ……(御配付トハ何ダ)ト呼フ者アリ

任ノ件)

七三七

